KEIO SFC REVIEW /







No. **66** SPRING2018

特集 SFCで学ぶ 外国語

















連載

sfcism/和田 夏実 When I was young/ 大谷 俊郎・渡邊 頼純 私の推薦図書/ 牛山 潤一・和田 龍磨

KEIO SFC F

| 特集 |
|----|
|----|

- 02 SFCで学ぶ外国語
- 04
 SFCで心からふれる言語を学ぶ

 柳町 功 (総合政策学部教授)
- O7 English Learning in the Globalized World Tiina Matikainen (環境情報学部訪問講師)
- 08 映画鑑賞・制作を通して学ぶ英語 中浜 優子 (環境情報学部教授)
- 10 世界に広がるSFC
- 12 留学のススメ 辻 明里 (環境情報学部4年)
- 14 「SFCで」言語を学ぶ意義 小林 朝紀 (2017年度政策・メディア研究科修士課程修了) 上田 眞奈美 (環境情報学部4年) 安田 翔鷹 (政策・メディア研究科修士課程)
- 20 タンデムラーニングプロジェクト 藤谷 悠 (政策・メディア研究科後期博士課程)
- 22 みんなにORFの感想聞いちゃったカモ

連載

- 24 sfcism 和田 夏実 (mmm/SFC研究所所員)
- 28 When I was young 大谷 俊郎 (看護医療学部教授) 渡邊 頼純 (総合政策学部教授)
- 36 私の推薦図書 牛山潤一 (環境情報学部准教授) 和田龍磨 (総合政策学部教授)
- 40 From Editor

SFCで学ぶ外国語

SFCで学べる外国語の授業をどこか当たり前だと考えていないだろうか?言語とはコミュニケーションのための一つの媒体であり、さまざまな地域の人と繋がるための手段でもある。このページに描かれている地図はSFCで学ぶことができる外国語を使用している国や地域を示している。外国語は、今後私たちが研究活動をしていく上で重要なツールの一つとなるだろう。SFCの実践的な授業にはそれぞれ教員の教育理念が込められている。

この特集では、SFCの外国語の授業を通して教員、留学生をはじめ、海外で研究活動に取り組む現役生、卒業生にSFCならではの言語の学び方、その思いを語ってもらった。

SFC で心からふれる言語を学ぶ

柳町 功(総合政策学部教授)

English Learning in the Globalized World

Tiina Matikainen (環境情報学部訪問講師)

映画鑑賞・制作を通して学ぶ英語

中浜 優子 (環境情報学部教授)

世界に広がるSFC

留学のススメ

辻 明里 (環境情報学部4年)

「SFC で」言語を学ぶ意義

小林 朝紀 (2017年度政策・メディア研究科修士課程修了)

上田 眞奈美 (環境情報学部4年)

安田 翔鷹 (政策・メディア研究科修士課程)

タンデムラーニングプロジェクト

藤谷 悠(政策・メディア研究科後期博士課程)

SFCで心からふれる言語を学ぶ



SFCでは実に11もの言語を学べ、 それぞれエキスパートの先生方が魅 力的な授業を展開してくれる。そん なSFCにおける言語の学びの理念と は一体何なのだろうか。言語教育委 員会の委員長である柳町功先生に、 SFCでの外国語教育の特徴やその意 義について伺った。

柳町 功

(やなぎまち・いさお)

ティブの先生が担当をしているのや話す練習、聞く練習などはネしています。しかし、基礎的な発

総合政策学部教授 専門は現代韓国論、 東南アジア経営史・財閥史(韓国・日本)

らなければならないと感じていまめにはそれぞれの国や地域を深く知さまざまな人々と共生していくた

がかなり多くいらこし というか。外国人の先生が数年間のしょうか。外国人の先生がケアをしたって、言語の授業をサポートしてくださるんですね。私が担当する朝鮮語の場合、全くゼロから勉強する学生がほとんどなので、本当に基めな部分は日本人の先生が数年間ので、本当に基めな部分は日本人の先生が数年間のによった。

ル

5

くます。

そのため、

ケーションをとることが必要です。人々と心と心が触れ合うコミュニ人々と心と心が触れ合うコミュニ人でと心を言語や背景となる歴史・文むていくためには、その国で使わさまざまな国とのより深い付き合いさまざまな国とのより深い付き合い

きました。SFCの外国語教育は、 いわゆる一般の総合大学が行う教養 いわゆる一般の総合大学が行う教養 レベルでの外国語教育をはるかに超 えています。なぜこのようなカリ キュラムになっているのかという と、自分の頭で外国語を駆使する力 を身につけてほしいと願っているか を身につけてほしいと願っているか を身につけてほしいと願っているか を身につけてほしいと願っているか と、自分の頭で外国語を駆使する力 を身につけてほしいと願っているか と、自分の意見表明をする際の鍵になるこ とにも繋がっていきます。 外国語を専門とする大学に引けを取らない厚いボリュームをもっています。例えば、ベーシックという基礎コースも設置されています。僕も最コースも設置されています。僕も最コースも設置されています。という基礎コースを設置されています。 SFCでの言語教育は外国語学部や としての言語に高めて 研究を突き詰めていくためのツ ハードな言語教育をするのか」 つの目標として で、「ないます。そう」といます。そう

と驚

えてください

いかなり多くいかなり多くいい

やるこ

つので生

やって、言吾)。 外国人の先生が数年間 いうか。外国人の先生が数年間

ているのでしょうか。その特徴を教に現場ではどのような授業が行われー―そのような理念のもとで、実際

れているのです。
がし言語という障壁は大変大きかし言語という障壁は大変大き

の国の言葉は不可欠です。そのようの国の言葉は不可欠です。そのようなことかもしれませんが、相手の変なことかもしれませんが、相手の変なことかもしれませんが、相手の個にえたいことをフィルターなしで理解していくためには、相手の国やその国で使われている言語への理解はとても大切なんです。誤った理解をしてしまうと、お互いに対する不信感が増幅してしまったりします。そのようなことがないよう、お互いに仲ようなことがないよう、お互いに仲ようなことがないよう、お互いに仲ようなことがないよう、お互いに仲ようなことがないよう、お互いに仲ようなことがないよう、お互いに仲ようなことがないよう、お互いに仲ようなことがないよう、お互いに対することがは、相手の理解を表している。 いける関係を築

SFCとフランスの大学というよう に、互いに関心をもっている学生た ちが集まり、討論会や研究発表をす る時に、どの言語で行うかというの は重要だと思います。 その国の人の心にふれるには、そ での国の言葉は不可欠です。そのよう と韓国の大学、SFCと中国の大学、素晴らしいですね。例えば、SFC駆使できるようなレベルになったら 人が、その言語を使ってディスなるために皆さんたちのようなば、これからの国と国との架け 青ったでは、 これからの国と国との架け橋に できるようなレベルになったら 悪います。そこまでの言語能力を が、その言語を使ってディスカッ が、その言語を使ってディスカッ が、その言語を使ってディスカッ が、その言語をし、まずは学生レベルでの コンをし、まずは学生レベルでの コンをし、まずは学生レベルになったら はないます。そこまでのような若い

か」という実感が伴ってくると本当で間いて、自分で確かめてみる。耳で聞いて、自分で確かめてみる。可ですよね。自分の目で見て、自分のですよね。自分の目で見て、自分ののはいけないん

の勉強になると思うんです。

この現実を知らずに、 から伝わってくるニュー

報だけを「まあ、

・スやイ

実を知らずに、テレビのどのような文化があるの

世界では、 で作成したオリジナルテキストで で作成したオリジナルテキストで で作成したオリジナルテキストで行 がで作成したオリジナルテキストで行 が市販されている教材書を徹底的に が市販されている教科書を徹底的に がですね。そこで、SFCの先生方 がですね。そこで、SFCの先生方 がですね。そこで、SFCの先生方 がですね。そこで、SFCの先生方 がですね。そこで、SFCの先生方 がですね。そこで、SFCの先生方 がですね。そこで、SFCの先生方 がでする。そこで、SFCの先生方 がでする。そこで、SFCの先生が更にないるんです。。

が置かれているのだと思います。深めていこうというところに、高語を使って地域についての関

切り離せないものがあります。

. C で

の言語教育はそのがあります。だか

またどの言語にも共通して言える

例えば朝鮮語で言えば「寒い」という単語は、韓国の寒さの中で、実ほしいし「辛い」という単語は、韓国利理の辛さと一緒に味わって覚えてほしい。そういう風に、言語の学ではしい。そういう風に、言語の学ではしい。そういう風に、言語の学

解を深めるという狙いもあります

らにその上の目標を考えらいんでいる段階だと感じています。さ城を知るための言語を一所懸命に学現在のSFCでは、その国その地

:れている場所は、いったいどうい!分たちが学んでいるこの言語が使

るのではないでしょうか

ジをお願

とで、人間と人間との関係が生まれると思います。もちろん、言語だけでそれができるわけではありませんが、そのベースとなる言語は重要なが、そのベースとなる言語は重要なが、その人とは絶対的な信頼関係を持って言語を学んでほしいですね。「この人とは絶対的な信頼関係がある」と思えるような関係を構築がある」と思えるような関係を構築 す。その一つの解として、言語をきっ付き合っていくべきだと思うんで付き合っていくべきだと思うんで題を超えて、本質的にお互い仲良くまな国とさまざまな問題を抱えていまな国とさまざまな問題を抱えている。 ちりと学んでおくということがあり

KEIO SFC REVIEW No. 66

言語だけでは限界があるでしょう。

きるでしょう

おそらく、

その二

語と英語だけを使って、果たしてす。例えば地域研究をする際に日

こまで当該地域を深く知ることがで

English Learning in the Globalized World



SFC の教室では、実際にどのような授業が行われているのだろうか。今回は、ティーナ・マティカイネン先生、中浜優子先生にご自身が行っている言語の授業について語っていただいた。



Tiina Matikainen

(ティーナ・マティカイネン)

環境情報学部訪問講師

For as long as I can remember, I have loved the English language and learning it, so naturally I aim to transfer some of that passion I have for English to my students as an English teacher. As a language teacher for university students, I believe my role is not only to teach English but also to teach students how to think and exercise their minds in different content areas as well as to think for themselves through active engagement with the language. I also believe language learning should help students to become lifelong learners by developing good learning habits that can be transferred from one subject area to another. Through my English classes, I aim to encourage students to be independent critical thinkers who are capable of autonomous learning. I hope to allow my students to see language learning as a whole, not divided into small majors or small fractions such as grammar or vocabulary, which in turn reinforces an intrinsic notion of the connectedness of learning. It is vital to teach language learners not only to have opinions, but to be able to express them, and to examine, through language, the interconnectedness of ideas and concepts. Students should be encouraged to develop their own natural intellectual voices, in any language they speak or study. This is what I aim to do in my language classrooms.

As a language teacher, it is important for me to encourage and develop each individual student voice in the language classroom. Students of mixed abilities of English, from different backgrounds, and with varying degrees of motivation for learning English gather in our classrooms. My ideal classroom is primarily a safe and comfortable place where students of varying abilities and experiences are encouraged to learn. It is important for me to create a classroom that values diversity and that can cater to different learning styles. Using a learner-centered versus a teacher-centered approach while meeting various learning styles is important in creating such a language classroom. In addition, students need to understand that skills can

be learned but good thinking cannot, and this is why it is important to stress this also in the language classroom. Therefore, my language classroom attempts to teach transferable skills that are present in any type and level of education, such as good written and verbal communication skills, the ability to solve complex problems, and adaptability. Empowering my students with the skills of analysis, questioning, and reflection, embedded in language learning, are the cornerstones of my teaching. Language learning is about so much more than only learning the language.

Many of my courses at Keio SFC combine English with authentic content from many different subject areas. For example, in my listening classes we watch TED talks about interesting and engaging current topics such as issues in technology, international politics, and human rights, to improve students' listening and discussion skills. Each week, the class focuses on comprehension of a TED video lecture. The students first learn vocabulary and answer comprehension questions about the talks, and then move on to critical analysis and discussion about the content. The course also includes student-led projects in which student groups are responsible for selecting a TED talk for the class as well as presenting this talk with a lesson to the class. In another class, we learn English through reading and experiencing classic and modern short stories. Students analyze literary elements in the short stories, discuss them, and respond to them orally and in writing. Through reading short stories, students can not only improve their reading skills in English but also learn various things about societies and their cultures. Content-based language teaching is an effective way for English language learners to develop their language skills and their academic skills at the same time. I believe it is important to combine this with skill-based language teaching, especially with Japanese students, in order to elicit the 'old knowledge' of language they already have and in order to continue building on it. Content-based teaching in a variety of subjects focuses on authentic and meaningful input and output, which in turn is very useful in preparing students for future studies in English. From theme-based topics, EFL teachers can extract language activities, and in this way, emphasize the importance of concurrent academic subject matter and foreign language skills.

A big part of my teacher identity comes from the fact that I was born and raised in Finland. Being a non-native speaker of English and having had the experience of learning English myself, I greatly enjoy helping my Japanese students overcome the difficulties they face while attempting to become proficient users of English. One of my main research interests is professional development for Japanese English teachers in order to empower them as non-native English teachers. In Japan, for a long time, the native speaker of English has been the ideal English-language user and this unrealistic ideal has transferred to the language classroom and to the English Language Teaching field in Japan. Students think they need to sound like a native speaker of English in order to be a proficient user of the language. This unrealistic learning goal is a demotivating factor for learners, I believe. There needs to be a shift from this nearly impossible vision of creating Japanese "native speakers of English" to helping learners develop a communicative working knowledge of English but not expecting them to adhere to the fallacy of sounding like a native speaker.

The students we teach are the future of Japan. In today's globalized world, English is a necessary tool for business, politics, education, and many other fields; it is not simply a language for communication anymore. Having a working knowledge of English, whether one likes it or not, is crucial for prosperity and for global participation. I wish to empower my students to adopt this pragmatic view about English in order to better their future. I want them to see the different doors English can open for them, now and in the future.

とになっています。「プロジェクト スコアーを基にクラスを選択するこ

形でアクトアウトできるようになる

ムの中で、

うに分かれていて、

自身の TOEFI

れを適切なコンテクストにおいて、なのか身に付けてもらい、実際にそ

(TOEFL 五二〇点以上) というふ

にA(TOEFL 四二五~四八○点)

レベルごと

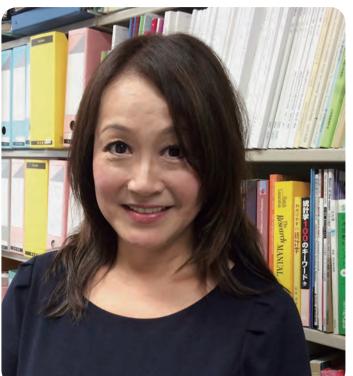
私が開講している(簡単に言うと)「英語で映画を作ろう」というクラスは、映画制作を通し、ある状況においてどのような言語表現、準言語的要素(イントネーション等)、非言語(ジェスチャー等、ノンバーが必要にある。

SFCの英語についてご

(TOEFL 四八一~五一九点)C

映画鑑賞・制作を通して学ぶ英語





(なかはま・ゆうこ)

出された課題を確実にこなす

クリエイ 戸惑う

る、ということです。プロジェクトの媒介言語となるものが英語であ

ということです。

プロジェクト

コンテンツフォーカスとス カスに分かれており、

う意味合いが込められています。

を立て、それに果敢に取り組むといためには実行可能性を見据えた計画

環境情報学部教授 専門は応用言語学(第二言語習得) す。そこで、リスニングの授業を開た時のことをふと思い出したほどでました。アメリカの大学で教えていのが、私にとってとても新鮮であり 性の高い面白い答えを返してくれる 英語の中枢になっているものは「プ の方もいると思いますが、SFCのく簡単にご紹介します。既にご存知 講することにし、履修生が自ら英語 Open-ended な課題を出しても創造 こともよくありました。SFC生は、 ティブなことを要求すると、 真面目さはあるものの、 学で教鞭を執っていた時、 優れた創造力と外向性です。 ロジェクト英語」です。 いついたという経緯です。 で映画を制作するというクラスを思 私の授業についてご紹介する前 まず、

エーション、ディスカッション等がとしてプレゼンテーションやネゴシを習得するのではなく、それを土台を習得するのにはなく、それを土台ルフォーカスに属します。スキル

できるようになるように導きます。

フォーカスといっても、スキルだけルフォーカスに属します。 スキルスピーキング、ライティングもスキ

リスニング以外にも、リーディング、のスキルフォーカスです。ちなみに、

が担当する「リスニング」は、

後者

キルフォー

言った場合、本来の意味の great でに傘を持っていない人が 'Great' と出先で、ザーザー雨が降り出したの当たで、ザーザー雨が降り出したの はなく、皮肉言った場合、 直接的ではなく間接的に意思を表明力)、またどのような表現を使い、 に解釈をしたらよいのか(受容能 的要素(例えばイントネ 謝罪行為)、談話標識(例えば、 することができるのか(産出能力) トの中で使われた表現等をどのよう の意味について、実際にコンテクス を中心に勉強しました。発話の言外 well, you know, I mean) とし、発話行為(例えば、依頼行為、 を「語用論的な言語運用能力の向上」 開講しました。今学期は、 を作ろう」をAレベル、Bレベルで 二〇一七年秋学期も「英語で映画 特に目標 ション) 準言語 さて、

個人のニーズに応えられるように、スニングのクラスではありますが、 あるので、その際に writing としてては、短いスピーチのようなものも ロードしてもらいます。課題によっで録画をして、授業ページにアップ このようにフレキシブルにしていま 文として提出した学生もいます。 提出してもよいことにし、 のに関しては、宿題にします。ペア にプレゼンテー なってアクトアウトしてもらいストのシナリオを提示し、ペアー しており、授業内でやらなか まずは各ペア その後、 口 l リオを提示し、 何組かにクラス全体 ルプレイは二種類課 ションしてもらいま ーで練習をしても ったも

ワークを一五分間設け、どのような業時に行います。その際、グループます。こ回目の授 ます。グループ乍りょ、:一が、大体五名で一グループを構成しが。 三つの段階があります。やはり映画制作です。 ジャンルの映画にするか等グループ どうしても日本語でないとでき 英語でディスカッションしま 映画制作です。その、この授業のハイラ そのために、 ①グループ

分)を抜き出し鑑賞してもらい、そ 映画の中からごく短い一部(二~

れて取り組んでもらったのは、

きます。そのために、毎週、数々のきます。そのために、毎週、数々のな事例を、映画を観ながら学んでい

反対の感情を意味する、というようはなく、皮肉表現として great の正

中間地点で、グループごとにパリークは毎回授業の最後十分ほど行り上がます。そして各グループからしいます。そして各グループからしいます。そして各グループからしいます。そして各グループからしいます。そして各グループからしいます。 使用可としています。リーのルールを強いるで、私は日本語もが、不安を感じることが。不安を感じることが、不安を感じることが、不安を感じることが、ないでは、これが、これが、これが、これが、これが、これが、 間違いをすべて書き直すのではな group presentationを行います。 分で直してもらうように促します。 ワーポイントを使って mid-term 編集をします。最後に、 そして④映画の撮影と編集です。 不安を感じることになり-のルールを強いる学者も 誤用を指摘し、同じ間違いは自 でしています。このグループ、私は日本語も必要であれば安を感じることになりかねな グループで集まり撮影、

す。私はこの瞬間、シラバスに書す。私はこの瞬間、シラバスに書すが、このように人前で英語で話すが、このように人前で英語で話のを見た時であのを見た時の喜びもひとしおでるのを見た時の喜びもひとしおで の主役をつとめ歌いまくる。といっの主役をつとめ歌いまくる。といっの主役をつとめ歌いました。他にもない主演男優に選ばれたように、といっの主役をつとめ歌いまくる。といっ このような流れで、終週が一番の楽しみで なかった男子学生が、 学期間が過ぎていきます。 役をつとめ歌いまくる。といっりかつらをつけて女性シンガーった男子学生が、映画の中でい、授業中はシャイであまり話さ 一番の楽しみです いきます。ある

themselves during this class. ~ 3

う目標が達成できたのではないか、

comfortable using English without

生が、best actor, best actress を投

KEIO SFC REVIEW No. 66

英語を担当するようになって、

私が二〇〇九年にSFCに着任

特集 SFCで学ぶ外国語

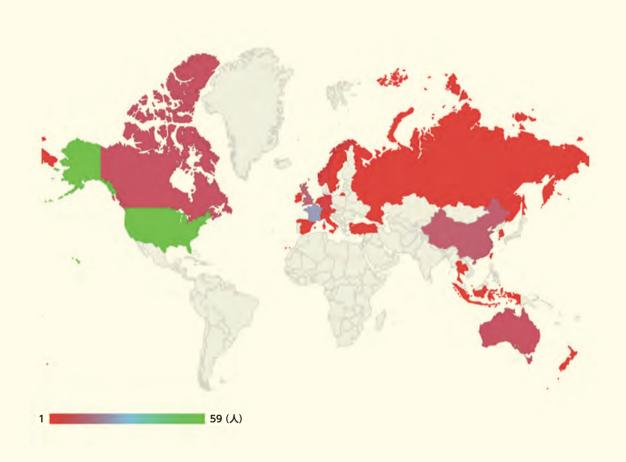
世界に広がるSFC

SFCで学ぶ留学生たちは、どの国からやってきたのだろうか。また、SFCから海外へ留学した学生たちは、どの地域で学んでいるのだろうか。地図を眺めながら、世界に広がる SFC を感じてみよう。



1 89 (A)

国別派遣交換留学生 (学内選考通過) の人数



国別受入交換留学生の人数

(協力:湘南藤沢事務室 学事担当)

11 KEIO SFC REVIEW No. 66 特集 SFCで学ぶ外国語 10

留学のススメ

はスペインに興味をもっていたわけ

私がスペイン語を勉

仲間と切磋琢磨しながら勉強を続けなっていきました。また、大好きな

るうちに、徐々にスペインやスペイ

クラスはいつしか自分の居場所に良くなり、私にとってスペイン語の

友人から授業の

スペインやスペイン語圏

りました。そして「スペイン語圏に ン語圏に対して愛着をもつようにな



辻 明里

(つじ・あかり)

環境情報学部4年 でした。 強し始めたきっかけです。その当時 様子を聞き、楽しみながらもしっか 学期は英語を履修することになりま 思っていたのです。 来の夢のために、世界で大言語とさ がありました。特に、その当時の将言語を一つ習得したい」という目標 り学ぶことができそうだと感じたス 履修の抽選で落ちてしまい、 ました。実はこの時、 れている言語を学びたいと考えてい 業務を行っています。 ペイン語のクラスを選ぶことにしま した。秋学期には、 ペイン語という選択肢はありません お話したいと思います てSFCで言語を学ぶ意義について スペイン語についての簡単なヒスト 私には入学以前から「英語以外の と、留学中のスペイン語、

フランス語を学びたいと

私の中にはス

ンのコントを披露しました。クラスンバーと一緒にスペイン語バージョ笑い文化をテーマに選び、チームメ

笑い文化をテーマに選び、チー

ンする授業でのことです。

日本のお

残っているのは、日本文化をプレ

ゼ

んで学んでいきました。

特に印象に

では先生や他の履修者とコミュニ

ションをとることが多く、

楽し

としばしば感じていましたが、授業 していました。宿題が多くて大変だ

しかしながら、

メンバーのみんなでパエリアを食べえています。他にも、テストの後に全体が笑いに包まれたのを今でも覚

たこともとても良い思い出です。

こうしてクラスのメンバーとも仲

結局春

葉や表現はすぐに使ってみるように このままではだめだと思い、 と実践を繰り返すうちに、現地の友 較的容易に理解することができまし FCで学んだものが多かったため比 うスペイン語の文法に関しては、 努力していました。 に新しい単語を書き出し、 り過ごすことも何度もありました。 ついていくことができずに笑顔でや もなかなか伝えられなかったので かさっぱり理解できず、 しました。相手が何を言っているののコミュニケーションにとても苦労 た。そうした友人の反応が糧となり、 ね!」と褒められるようになりまし 人に「スペイン語が上達してきた た。そうして日々新たな知識の習得 一年も経つ頃にはそれなりにコミュ 会話のスピードがとても早く、 現地の大学で習 自分の感情 覚えた言

研修という選択肢もありましたが、

することを決めました。

短期外国語

時からスペインへの交換留学に挑戦 でみたい!」そう思った私は、その

もっと長く滞在し現地の大学で勉強

交換留学制度を利用して、

ゼンチンに行くことを知りまし

スペイン語のクラスの友人が大学の そんな思いを抱きはじめた頃、 行ってみたい!」と思いはじめます

た。「羨まし

私も現地に住ん

を使うことを見据えているからで 語習得を学習の成果物とするのでは 私はここで言語を学びたいと思って 他の場所でもできますが、それでも 目標に向かって必要だと思う学びを います。というのは、 たしかに言語を学ぶだけであれば 言語に限らずSFCでは、 学びを深める道具として言語 SFCでは言

できました。

こうして留学のチャンスをつかん

話されている言葉は、

話すテンポが 現地で実際に

スラングや文章・

んでした。なぜなら、

きたのかというとそうではあり

ミュニケー

ションに生かすことがで

留学先では現地の人と

年には念願のスペイン、バルセロ

の留学のチャンスをつかむことが上には念願のスペイン、バルセロナ

した周りの方のサポートもあり、

翌

んだスペイン語をすぐに現地でのコ

実際に留学してみて、

S F C で 学

トをしてくださいました。そう

語を学ぶ意義に繋がるのではないか 法が生かされました。また、 文章の構造やアカデミックな表現方 部での講義や、友人と難しい内容を 異なる、スペイン語で文章を書き、 と私は考えています。 を学んでいたのではないということ にコミュニケー この経験から、SFCでは、ただ単 生かされることも多々ありました。 議論する際、SFCで何度も学んだ とても役に立ったのです。 プレゼンテーションをし、 と力を発揮しました。 で学んだ内容は後になってじわじわ 多かったからです。 を実感しました。この点がここで言 ン語を使って学んでいた内容自体が べるといったアカデミックな場面で 省略といったくだけたスペイン語が ションのための言語 しかし、SFC 日常会話とは 考えを述 現地の学 スペイ

> のではないでしょうか。一方で、よがSFCで言語を学ぶ一番の魅力な 道具として使い、 じました。 中に自分で学習する必要があると感 表現や語彙に関しては留学前や留学 り現地の人々が使うものに近い会話 を深く学ぶことができること、 の一つとして言語を選択し、それを 選び取ることができます。 自分の研究テー そのう それ 7

ことのために言語を学習してほし 語・そして現地で学んだロー としてだけではなく、 ティと言語についての研究を進めて カタルーニャ地方のアイデンティ す。現在はスペイン語を用いながら、 。mz..... も自分の研究へと生かされていま スペイン語や文化、それらは帰国後 みなさんにもぜひ、 しての言語学習。これはSFCだか らこそできることだと思います スペイン語のクラスで学んだコン ます。コミュニケーションツ ンツやアカデミックなスペ 自分のやり 学びの道具と カルな しいたい イ ル

題や経済、文化、芸術、スポーツにり上げられるスペイン語圏の社会問

もより一層関心をもつようになりま

いを知った先生方は、たくさんのサ した。留学に行きたいという私の想

ました。

ニケーションがとれるまでに上達し

や今までの復習、ビデオでの勉強や、

ルに達するためにコツコツ勉強しま テキストの音読等、留学できるレベ

した。また、講義でテーマとして取

いうもの、

毎日スペイン語の文法書

することを選びました。

それからと

KEIO SFC REVIEW No. 66

時には一年間のバルセロナへの留学

の勉強をスター

ートさせ、

大学一年時にSFCでスペ

を経験しました。現在は帰国し、

ス

うという気持ちで、

大学生活中にス

得られたチャンスを生かそ

ン語研究室で自身の研究とSA

今回

は、

私と

た。講義や宿題に対しては真剣に

ン語を習得することを決意

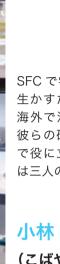
取り組み、

動画等も見ながら勉強を

そし

についての知識は何もありませんで

「SFCで」言語を学ぶ意義



SFC で学んだ言語を、自身の研究に 生かすためのツールとして、実際に 海外で活躍している SFC 生も多い。 彼らの研究に、言語はどのような形 で役に立っているのだろうか。今回 は三人の学生にお話を伺った。

小林 朝紀

パスツール研究所

フランス語で説明されることも多々 留学生が私一人だったこともあり、 た。コースの主言語は英語でしたが ンスの教育レベルの高さを感じまし

ありました。そのため、

フランス語

超高熱性古細菌

知りたいこと(生化学)を学ぶため

コースは全てフランス語でしたが

に必要な言語(フランス語)を習得

する体験を通して、

さまざまな言語

で意思疎通がとれることは、情報収

手にしていることだと実感したわ 集のための重要な道具(ツー

テに憧れてドイツ

(こばやし・あさき)

究室が必ずしも英語圏にあるとは限 究テーマでもあった超高熱性古細菌 だったため、 をしました。パトリック・フォルテー そのウイルスの生活環におけるグリ ツール研究所では、 物学の修士号を取得しました。 政府給費留学生として渡仏し、微生 共同奨学金プログラム」のフランス 卒業後すぐに渡仏を決意しました。 感銘を受けたことがきっかけで大学 フランス・パリ、 (アーキア) について学ぶなかで、 ル教授の研究室は非常に国際色豊か コシル化酵素の役割についての研究 うに感染し放出されるのか、 に感染するウイルスが宿主にどのよ ル財団とフランス政府による「日仏 らない。二○一五年に日本パスツ しかし、研究分野の第一線を走る研 生命の起源に関する論文と出会い のパトリック・フォルテール教授の 科学の世界の共通語は英語です 公用語は英語で、

ンパク質

RNA分子の相互作用、

その後、生化学修士課程へ進むこと

に勉強したいという思いが高まり、 なりました。そのような環境で、 の習得も私にとっては大きな課題と

を決めました。

生命の起源、特にリボザイム、

共進化についての研究で、

生化学の

修士論文を書きました。生化学の

2017年度政策・メディア研究科修士課程

の好奇心から研究者という道を選

微生物学修士課程のコー

-スにはフ

いました。パスツール研究所での

ンス全土から精鋭達が集まり、

生きるという現象、

のディスカッ

ションも英語で行わ

ダイナミックさに惹かれ、その起源 んだのが高校生の時。大学時代の研

引き寄せる力となっていくのだと思 理解し、活用し、より多くの情報を ことのできるように学ぶのだと思い ては繋がっているのだと体感するこ SFCに散りばめられた言語を含 います。SFCで言語を学ぶ意義は、 知識や技術が更に大きな力、即ち、 ての学びの場が活き、そこで得た、 生だからこそ、多分野の集まりとし 識、技術を選び取る力のあるSFC 糸に気づき、その糸を手繰り寄せる でいくことこそが研究であり、その 糸を手掛かりにして切り開き、 感するのです。一方、これまでにこ め、あらゆる物事が後になって、 の世界に生きた誰かが残してくれた

能であればその国の言葉でのコミュ

るロマンス諸語を話す国々では、可

ニケーションが好まれるという傾向

では、仏、独、伊、

西

露、

回しを学ぶこともあります。SFC 地域独特のフランス語、単語、言い

はあるのかもしれません。

もちろん、科学の研究分野に進む

比較すると、

フランスをはじめとす

英語と同じゲルマン語派であるドイ

ツ語や北欧諸国の言語を話す国々と

ア、チュニジア、モロッコではフラ

ンス語で学ぶ学生も多いため、

この

話していた様子がとても印象的でし

の学生の多くが非常に流暢な英語を

を用いて友人と話すようになりまし

スペイン語、ロシア語

フランスには北アフリカの国々

に留学したことがあります。ドイツ

た。同じヨーロッパ諸国においても

からの留学生も多く、

よく耳にしますし、

特にアルジェリ アラビア語も

自分の進むべき道に重なる知

「科学」を目的とした学生も、

で着実に世界を身近に感じる経験を が一つ、また一つと増えていくこと

私自身、用いることのできる言語

しています。まだまだ道のりは長い

のの、最近では少しずつドイツ語

な扉がこの世には存在するのだと体 およそ開けきることのできない膨大 まるにつれ、更に細分化された分野

の扉が開き、

人ひとりの一

生では

何事においても少しずつ理解が深

國枝孝弘 (総合政策学部教授)

てくれるのです。

実です。そして英語が主言語である

としても、

生活のいたるところでそ

語圏外に多く存在することもまた事

国の言葉(ツール)を用いることで の国の言葉を話す機会があり、

パク質

-タンパク質、タンパク質

タンパク結合ドメインの同定、

タン

を用いたスプライソソ

ムにおける

(INSERM) で核磁気共鳴 (NMR) ランス国立保健医学研究機構

RNA分子の相互作用について研究

より多くを学ぶことができるのだと

習得は必要不可欠だと思います。

学ぶことになりました。

現在は、博士課程の学生としてフ

語から始まり、多くの言語に触れ、 択することができますが、フランス などとさまざまな外国語の授業を選

かし、世界を牽引する研究機関が英

のであれば、

国際語としての英語の

國枝先生から一言

なによりも自分が興味をもって勉強 のよりよい習得にもつながりますし、 することが、動機を高めてその言語 や研究テーマにあわせて言語を選択 ス語を履修します。このように目的 などなど。そして小林さんのように、 たい」、「芸術の世界を深く知りたい」 本当に多様です。「国際機関で働きた ても、履修をしている学生の目的は ですが、フランス語のクラスであっ 自体がさまざまな学問が学べる場所 学生です。SFCというキャンパス たフランス語のクラスで勉強をした い」、「アフリカで人道援助に携わり かつ深く探求することを可能にし 小林朝紀さんは、 研究している学問分野をより広 私の担当して フラン

KEIO SFC REVIEW No. 66

フラ





おととというでは、大きなというでは、大きなというでは、大きないの中で、一番アラ当時のインテン・の中で、一番アラ当時のインテンポ遅れて「!」、大きもみんなが「!」、わたしだけ「?」、三テンポ遅れて、かんなが「!」、わたしだけ「?」、三テンポ遅れて、やめまて、プライドへし折れて、やめました。でも、いていけなくて辛くて、プライドへし折れて、やめました。でも、半年ほど、アラビアと。聴講の許可をいただいて二年と。聴講の許可をいただいて二年と。聴講の許可をいただいて二年と。でもない朝、道端を歩いただいて二年でもない朝、道端を歩いただいて二年が落ちるような新しい発見が何度が落ちるような新しい発見が何度が落ちるような新しい発見が何度が落ちるような新しい発見が何度が落ちるような新しい発見が同度が高いでもない朝、道端を歩いたがる光景、聞これはなかった。気軽にやり直せるっれはなかった。気軽にやり直せるったと

上田 眞奈美

ること[°]

(うえだ・まなみ) 環境情報学部4年

いないのに、意味がない!」とわたしを勘当。母方の祖父は「そんなにしを勘当。母方の祖父は「そんなにアラビア語がやりたいのなら」とアラビア語がなります。でも同時に、SFCに来てよかったとも思います。たら嘘になります。でも同時に、SFCに来てよかったとも思います。なぜなら、SFCに来ていなかったとも思います。ながからです。
SFCでアラビア語を学んでよかった点のまず第一が「自由」であかった点のまず第一が「自由」であること。

こうしてこの原稿を書き綴っているまさに今も、研究調査のため、モロッコに「帰って」きています。自力がらはチュニジアにいます。自分がアラビア語やアラビア語やアラビア語やアラビア語やアラビア語やアラビア語やアラビア語やアラビア語やアラビア語やアラビア語やアラビア語やアラビア語やアラビア語やアラビア語やアラビア語やアラビア語やアラビア語やアラビア語やアラブに興味をもったのは、些細なことがきっかけでした。その映画でトム・クルーズがとた。その映画でトム・クルーズがとある湾岸諸国の広大な砂漠をバックに高層ビルをよじ登っている姿を観て「こんな景色があるのか!」と驚嘆しました。その時に「こんなミミズみたいな文字を見た時に「こんなミミズみたいな文字がわかったら、ミミズみたいな文字がわかったら、ミミズみたいな文字がわかったら、ミミズみたいな文字がわかったら、とと驚嘆しました。その時の偏差値に「こんなに世界が広がるんだろう!」とでみの大学には不合格。合格した大学目指して猛勉強。SFCなんてうけ、という父親とくはプライドもあったのでしょう。後はプライドもあったのでしょう。

ラブ」が意味するのは、テロでもなく、単に砂漠だけでもなく、石なく、単に砂漠だけでもなく、石はだけでもなく、石なく、単に砂漠だけでもなく、石なく、単に砂漠だけでもなく、石なら、ご飯は美味しく、壮大な大自く、ご飯は美味しく、壮大な大自然があって、深い文化と歴史、色然があって、深い文化と歴史、色然があって、深い文化と歴史、色然があって、深い文化と歴史、色然があって、深い文化と歴史、色然があって、深い文化と歴史、色然があって、深い文化と歴史、色然があった。日分の想像よりも「アラブ」の世界は、遥かに、美しいものだった。アラブは本当に「色彩」豊かなところでした。そこでの友人や家族に話したり見せたり切けだったSFCの友人や家族に話したり見せたりもしました。そこでの友人をおしばだったSFCの友人のアラブの国へ旅行にも、彼らを紹介したりして、いろいろな化学反応を起こすことができた。キャンパス内に、アラブに繋きた。キャンパス内に、アラブに繋きた。それもまた良い部分だと思います。 す。

て素晴らしい。

SFCの履修の自由さも良いところ。以前は昼間、今は夜間でサウジアラビア大使館附属のアラビア語学校にも通っています。もし外国語を専門とする場所にいたら、わざわざ大学外に出なかった。おかげで、活動の幅を広げられました。中でも、大学外に出なかった。おかげで、活動の幅を広げられました。中でも、大学外に出なかった。おかげで、活動の幅を広げられました。中でも、たアラブに精通した方々から研究に強えたアラブに精通した方々から研究に強えたアラブに精通した方々から研究に強えたアラブに精通した方々から研究を見られまで様々なアラブ人・国境を超えたアラブに精通した方々から研究に強えたアランス語も多く存在しています。そものきっかけをSFCの「自由」は与えてくれました。
ローッコの方言はフランスが旧宗主国でフランス語を学ぶのに敷居がこんなに低くて、やめてからも暖かくサポートがち強く受けています。そういう時に、ちょっとした疑問をフランス語の影響を強く受けています。そういう時に、かめてからも暖かくサポートがある。素敵なことですよね。アラビア語を始めたら、様々なアラブの国からのアラブ人にたくなん出会うことになりました。スーイエメン、シリア、ヨルダン、レ

外国語を学ぶの 最高の場所なんて で、と。見て聞い だ、と。見て聞い だ、と。見て聞い も、せバイブする く。サバイブする も、ことが は、現 ペラペラになるわけでもだって、たかがしれていて皆いて感じて喰らいつでする。ゴミ箱一つからなれてないと思います。なんてないと思います。は、現地で生活することは、現地で生活することは、現地で生活することは、現地で生活することは、現地で生活することは、現地で生活する。

つ

なったような気がします。ちょうけすぎますか? この思いを胸に、これからも でと日本の架け橋となるように がと日本の架け橋となるように でからこそ、そう思うようにな ここで学 ここで学 たん人ラ

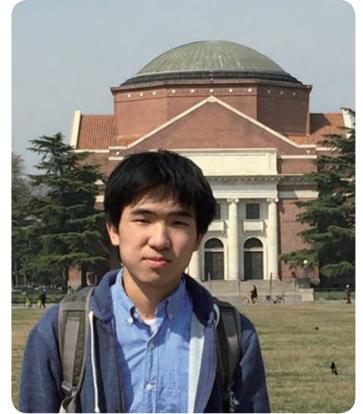
「。 を駆使した研究の成果が でいます。また、長期 になく、サウジアラビア になり組んでいます。

史也 (総合政策学部教授)



17 KEIO SFC REVIEW No. 66 特集 SFCで学ぶ外国語 16





私は先ず、スキル科目から『文法』

と『時事』を受講しました。『文法』 では、身近な話題に関する文章を用では、身近な話題に関する文章を用 しぶりを垣間見ることもできまし た。『時事』では、NHKの中国の た。『時事』では、NHKの中国の た。『時事』がは、カHKの中国の

て中国の貧富の格差、環境した。このドキュメンタリ

せば話すほど、も多く、また、

担当者と中国語で話 い情報を得るこ

渡航

直後の入寮手続きやビザ取得手

を経て交換留学した清華大学では、このようなSFCでの中国語学習

続きなどで中国語しか通じない

場面

の中国近現代史、中国地域研究に関する研究会で中国の外交について勉強しています。小学校から中学校の強しています。小学校から中学校の強しています。小学校から中学校の強しています。小学校から中学校のがある。

中国語での討論も経験できました。 中国語での討論も経験できました。 これらに続いて受講した『中国語海外研修』は、北京大学での中国語 得コースを修めるもので、はじめに行われたクラス分けのための中国語 事』がいかに実践的であったかを実 事』がいかに実践的であったかを実 事」がいかに実践的であったかを実 事」がいかに実践的であったかを実 書作成/レポート作成/学術用語活 用の実践演習)と高級口語クラス(日 常会話/討論/プレゼンテーション の実践演習)は、日本語を一切使わ ない中国語漬けの環境ということも あり、中国語を短期間で最大限伸ば すことができました。その後も、私 自身の興味と中国への交換留学に向 けて、スキル科目から『医学』と『検 定』を受講しました。『医学』と『検 定』を受講しました。『医学』と『検 定』を受講しました。『医学』と『検 定』を受講しての理解を深め、その関 連映像を通して知見を深めることも できました。そして『検定』は、留 できました。そして『検定』は、留 できました。そして『検定』は、留 がきいたの力強い対策となりました。

(やすだ・しょうよう) 政策・メディア研究科修士課程

私は、現代」」 ・清華大学への一年間の派遣交換 国・清華大学への一年間の派遣交換 国・清華大学への一年間の派遣交換 ・高雄大学への一年間の派遣交換 ・一、総合政策学部を員教授)の現代 ・ は、現代」」

安田 翔鷹

友人の多くは中国人でした。しかし、 友人の多くは中国人でした。しかし、 を上ベルで、大学での研究に活かす にはまだまだ向上させねばならない ものでした。そして私は、大学時代 は再び中国語を学ぶことのできる大 きなチャンスだと直感しました。

して、初学期の終盤には、グループり、また、調べた用語を恐る恐る使り、また、調べた用語を恐る恐る使り、また、調べた用語を恐る恐る使りがあがら、対論でも徐々に言いたいながら、対論でも終れている。

ともできたので、できる限りの中国語を話しました。しかし、大学食堂で食事を注文する際は、料理の種類が豊富で何が何だかわからず、現地学生のように料理名で注文できずに「これ」「あれ」と現物を指差し注文していました。このように、中国語で話せたり話せなかったりしながらで話せたり話せなかったりしながら、次留学生活をスタートしましたが、次

を代表しての課題発表や、その質疑を代表しての課題発表や、その質疑応答を行ったり、日本語で考えた意見を訳すのではなく、直接中国語で考えて討論することができるようになっていました。 帰国後、研究会では、例えば人民日報(中国共産党の機関紙)に掲載された論評や中国人外交官の回顧録を検討する際、留学経験で培った観点や考え方が役立つ場面も多くあります。また、日本語訳された資料よりも、原文の方が時間をかけずに目を通すことができ(そもそも同一内容であれば中国語表記の方が、圧倒容であれば中国語表記の方が、圧倒容であれば中国語表記の方が、圧倒容であれば中国語表記の方が、圧倒容であれば中国語表記の方が、圧倒容であれば中国語表記の方が、圧倒容であれば中国語表記の方が、圧倒容であれば中国語表記の方が、圧倒容であれば中国語表記の方が、圧倒容であれば中国語を記述されている。 時に 確に理解できるようになったと感じ は日本語訳された資料よりも正

清華大学では、留学生向けの一般科目一科目(二単位)と中国語レ外は、現地学生との区別が全くない外は、現地学生との区別が全くない時門科目を七科目(一丸単位)履修専門科目を七科目(一九単位)履修専門科目を七科目(一九単位)履修専門科目を七科目(一九単位)履修専門科目を七科目(一九単位)履修することのできない部分も多々ありました。講義を受ける前に、まずりました。講義を受ける前に、まずは事前に指定された文献中の語彙の意味や概念を、辞書を引きながら理解することからはじめ、関連事項を解することからはじめ、関連事項をでした。討論形式の授業も全て中国語でした。討論形式の授業も全て中国語でした。討論形式の授業も全て中国語でした。討論形式の授業も全て中国語でした。討論形式の授業も全て中国語でした。討論形式の授業も全て中国語でした。討論形式の授業も全て中国語と

SFファットの国語」を学ぶことは、スカを母語とする民族の、伝統に裏切れを母語とする民族の、伝統に裏切れを母語とする民族の、伝統に裏切れを母語とする民族の、伝統に裏切れを母語とする民族の、伝統に裏切れを母語とする。 の日常生活や習慣、中国の社言語能力の向上のみならず、 SFCでの中国語学習は、 は、「卜国吾」とも 言・・・よ、このように中国語と関わってきた なりました。その基となったに「心」を学ぶことだと思う語とする民族の、伝統に裏打 中国の社会問題 いわゆる

い場面もありました。しかし、時間変換できず、言いたいことが言えな日本語ではわかっていても中国語に

文化、哲学など、幅広い知識を楽し みながら吸収できるものです。加え て、中国語使用の実践にも馴れることが できます。さらに、中国語検定に対 できます。さらに、中国語検定に対 できます。さらに、中国語検定に対 できます。さらに、中国語検定に対 がしたクラスまで用意されていま す。今、振り返ってみると、SFC の中国語との出会いが、実り多い留 学に結びつき、そして、そこから得 学に結びつき、そして、そこから得 が揃っています。SFCの中国語には、ベー シックからインテンシブの各段階に 加え、多分野にわたるスキル科目や 加え、多分野にわたるスキル科目や が揃っています。そして、それらを 個々のニーズに合わせて自由に組み 立てることもできますし、また、S これを、SFCは自りつ国語を これを、SFCは自りつ国語を ています。
で自身の実力を測りながらス試験)で自身の実力を測りながらス試験)で自身の実力を測りながらス

ことができました。学生と知り合い、多くの毎日通いつめた大学図書毎日通いのので大学図書

り合い、多くの友人を得るつめた大学図書館でも現地一回のテニスサークル

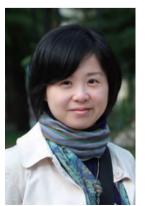
でもする。次

考えています。皆さ語の一次資料に基づ治に関する研究を、 ように充実したSFC考えています。皆さん が氾濫する現在、 各種メディ を活用して 次資料に基づ てみてはいかがでしょうけたSFCの中国語コーす。皆さんも是非、この料に基づいて行いたいと料に基づいて行いたいとのはまで、できる限り中国研究を、できる限り中国のでは、現代中国政

八年二月八日

第先生から一言 第大生から一言 第十国の一方は少なくあり 第十国の一方は少なくあり 第十国の一方は少なくあり 第十国の上海で数年間滞在したいます。 第一国の上海で数年間滞在したいます。 第一国の上海で数年間滞在したいます。 第一国の一名で数年間滞在した。 第一国の一名で数年間滞在した。 第一国の一名で 第一国の一名で 第一国で 第一国語の研究 第一国語の研究 第一国語の研究 第一国語の研究 第一国語の研究 第一国語の研究 第一国語の研究 第一国語の研究 第一国語の一名で 第一国語の一二の 第一国語の一二の 第一国語の一二の 第一国語の一二の 第一国語の一二の 第一国語の一二の 第一国語の一二の 第一国語の一二の 第一国語の一二の 第一国語の一二の

鄭浩瀾 (総合政策学部准教授)



KEIO SFC REVIEW No. 66 特集 SFCで学ぶ外国語 18

タンデムラーニングプロジェクト



で、言語学習にアプローチしていく取 り組みも SFC には存在する。今回は、

藤谷 悠 (ふじたに・ひろき)

政策・メディア研究科後期博士課程

それぞれの母語と学習言語とを「言

ことができれば解消される問題かも

様々な事情により

海外研修を行うことで、

参加者同士の関

ンデム)とは、外国語学習者同士が

ます。このタンデムを行うためのされず、立場が流動的に入れ替わり→学び」という一方向の関係で固定

系的な知識の獲得という面において 学部生の頃に行っていたタンデムにこのプロジェクトの原点は、僕が 際の言語使用を体感することの難し 実践的に使用する場面は乏しく、 ないでしょうか。 FCのどの外国語の授業も同様では た。これはフランス語に限らず、S は素晴らしい環境が整っていまし の授業はどれも充実したもので、 関する研究です。僕はSFCに入学 「タンデムラーニングプロジェクト」 フレンズ(MCF)が展開している ジェクトが、現在メディアセンター していました。受講したフランス語 してから継続的にフランス語を履修 日常生活では、身に付けた知識を トナーをマッチングするプロ ですが、

体

この双方が交流するきっかけとして

タンデムは有効ではないかと考

いう状況があることを知りました。

えました。

教室の外

容と形態に魅了されたこともあり、動があることを知った時に、その内いた友人を通じてタンデムという活

前からドイツ語の授業内で行われてSFCでのタンデムの活動は、以

ました。僕はドイツ語を履修して

タンデムそれ自体を当時の研究の対

自ら周りの友人たち

係は常に相互的なものであり「教え 的な学習活動です。 語交換」するという、「半学半教

> 成しがちで、同じキャンパスにいて 日本人学生同士でコミュニティを形

もそれぞれの生活が交わりにくい

学生との交流の場が少なく、 の中で、SFCでは留学生と日本・ の中で、SFCでは留学生と日本人たことも影響しています。その活動

留学生

は留学生だけで、

また日本人学生も

研究室で留学生支援の活動をしてい れに加え、当時所属していた日本語 問題にアプローチしようと考えたこ

るわけではないでしょう。

ての学習者がそうした機会を得られ

とが、研究の動機となりました。

過去に行われた活動例を紹介するな の活動に介入しません。 者たちの日常生活の一部としてタン とも一切ありません。これは、参加 なっていたような、タンデム研究の の調査や、あるいはかつて僕が行 に意識しています。また、 ど、最低限の情報提供に留めるよう 活動への助言を求められた場合は、 自身の活動へと移行し、 きたようなタンデムに関する概要説 ぞれの言語状況などの情報を基にし 応募者たちから送ってもらったそれ 行うのは、プロジェクトの募集時に めていくことになります。 などタンデムに関する全ての活動内 どんな方法で、どういう頻度で、 のデータ収集を行うといったこ マッチングの際には上述して いますが、 とのマッチングだけ 以後は参加者たち 参加者から MCFはそ との間で決 活動状況

アセンターをタンデムの『ハブ』と

明は行

ました。そこで「もしかしたらメディ

して活用できるのでは?」と思いつ

現在に至ります。メディアセン せ「Multimedia MultiLingual

通じてMCFへの参加の誘いがあり

デムを敷衍したいと思ってい 学内で他の言語を学ぶ人々にもタン

まし

分が良いと思ったものを皆に広めた

しかし、それに飽き足らず(自

という実に身勝手な動機です

を巻き込んで活動の実践・観察を行

た。ちょうどその頃に、

知り合いを

Space (MMLS)」という言語学習に

や「他」のような存在との関わり うな「顔のない他者」ではなく、 のタンデムは、「〇〇人」というよ そして、そうした「遊び」として いるパ

自分たちの手で構築・実践する「自 参加者たち自身が自分たちの学びを

動の様子を参与観察させてもらいな

「もし僕(あるいは調査の枠

力外部からの負荷を与えたくないと デムを取り込んでもらうために、極

に基づいています。

義があると考えました。

がタンデムの大きな特徴です 参加者同士による相互学習という

つ特徴があります。

ターがタンデムの「ハブ」になる意

した場だからこそ、メディアセン

う生身のメディア」が行き交う場で あります。それに加え、「人間とい というメディア」を取り扱う場でも 特化した設備を有するなど、「言語

もあると、僕は考えています。

は様々な形態がありますが、僕はこちた活動でもあります。タンデムに定された枠組みのない「遊び」に満 いて構築されてこそ、教室内で学ぶれる活動は徹底的な「遊び」に基づ ています。そこには、 ど、確かに学びとしての側面が強い に見合う実践となり得るのではない 確固たる知識(理論)との両輪駆動 としてのタンデムを広めたいと考え の「遊び」の部分を最大化した活動 活動ではありますが、 学習といった意味づけがなされるな か、という思いを込めています。 教室外で行わ その一方で規

> てほしいです。 グだけ続けていきたいと思ってい しいので、今後も無責任にマッチンにしておくのも「遊び」があって楽いる交流を僕自身もわからないまま は、実に興味深いです。……がどんな交流を繰り広げている など無視して、気ままに楽しんで こで語っているような主催者 手にマッチングした)パー んな僕のマッチングによって起きて ので、 が良いのか、未だによくわからなですが、実際の彼らとどう関わる ところがあります。よくわからな なので、参加者の皆さんも、 参加者の皆さんが(僕がが、 んでい の そ ま かと

思っております。興味が湧いた方は 今後も趣味やライフワ 実にタンデムが学内に広まっている りの数の応募があり、 握できていませんが、 ほとんど関わっていないため、個 え、まだまだこれから。 ような気配を感じています。 してくれる人もいたりするので、 具体的な活動についてはあまり MCFはマッチング以外のことに のんびり続けていければと 継続的に参加毎学期それないてはあまり把 僕としては、 とはい 着 々

KEIO SFC REVIEW No. 66 特集 SFCで学ぶ外国語 をう少しブース展示に ゴチャゴチャ感があっ てもいいかも? 椅子、休憩所が欲しい。 気軽に座れたりいいよわ

> 会場でドローン飛ばしたり セグウェイで移動したい

意見

セッション情報がも うちょっとパンフ レットにあるといい かも

昔のORFの映像がWebで公開 されているので見られるように なっているとおかった

各研究会のアピール ポイントがあるとい いなと思った

天井付近の空間を 生かせていないの が残念

学生を名刺があるといい出会いがあった時ORF以降を繋がりが続くかなと思いました

人がたくさんいるのでもう 少し広くした方がいいと思います。でもほかは全部良かったです 人が来にくい文系ゼミにも人が流れ込むようにしてください。理系文系の ブースをごちゃ混ぜにするとか!

もっと説明できる人を増やしてほしい! 声量をあげて声が聞こえるようにしてほ しい。研究会もっとたくさん出てほしい

みんなにORFの感想聞いちゃったカモ

2017 年 11 月東京ミッドタウンにて「Open Research Forum 2017」が開催された。 KEIO SFC REVIEW 編集部も Open Research Forum(以下 ORF)に出展し、ORF について 特集した 65 号を配布するとともに、展示方法など大きな変化が見られた ORF の感想をアンケー ト形式で来場者の方々に伺った。その一部をこの場で紹介させていただく。

SFCの多様性と将来の日本 を変えていくだろう人材、皆 さんの活躍に感動しました。 おりがとうございます まだどういう成果につな がるのか不明?一年後の 進展を期待してます

There were a lot of inspiring exhibits. However, I wished it would be more obvious to tell which it a seminar that belonged in SFC.*Also put chairs

湯河原での世代交代プロジェクトの説明の方面白 かったです

威想

様々なブースがあり分野別で面白かったです。いるいるな文化や情勢をグラつや表で体験談をもとに聞くことができて奇矯な時間を過ごさせてもらいました! ありがとうございます

松川研究会の展示で保育 に関わる連学の生かし方 などできてよかった(学 部2年生と)

Das macht Spaß... Aber das ist einfach zu lang...xc

研究がどれを興味深く説明してくださった学生さんをとてを楽しく話してくださり心底自分の研究が好きであることの幸せのおすそ分けをしていただいた気分でした

石川研究会のイーゼルの 活用棚がいい

23 KEIO SFC REVIEW No. 66

stcism

stcism Nol.14

SFCの卒業生や現役の学生のなかには、知る人ぞ知る人がいる。 このコーナーでは、ユニークな活動をしている卒業生や学生を特集する。 今号は、手話について研究されている和田夏実さんにお話を伺った。



簡単なご経歴を教えてくださ

送っているかということを教えてく す。そのときに彼らがいろいろな国 聞こえない外国人の方がホームステ (慶應義塾大学名誉教授) の研究会 とつとしておられた古石篤子先生 の秋学期までろう教育をご専門のひ 残っていました。SFCに入学して みたいなものが強烈な記憶として れたんですね。 の景色を描くようにどんな生活を の話をしてくれて手話で、 野県は自然が豊かで、 のない世界、目でコミュニケー ずっと暮らしてきたので、完全に音 こえなかったんです。 だったのです からは、一年生の秋学期から二年生 ンを取り合う世界が普通でした。 イに来られることがよくあったんで -など観光資源がたくさんありま その影響で、 両親と私の三人暮らし その後、 その時の「豊かさ」 小さい頃から耳が そんな環境で 地獄谷やス 三年生のと 空間にそ

> 文を書いています。 水野研究会を行き来しながら修士論 士課程に進み、現在では筧研究会と の研究会に所属しました。そして修 野大二郎先生(環境情報学部准教授) デザインリサー のときにインクルーシブデザイン、 環・学際情報学府准教授)、 明先生(現・東京大学大学院情報学 きインタラクションデザインの筧康 チを専門とされる水 四年生

手話研究のきっかけを教えてく

がそこにあったのではないかと思っ ると、すごくおもしろくていい経験 かったんですけれど、 さを感じたんです。 話にはよく表れていて、 やその情景、 ぞれの国で起こったさまざまなこと のカルチャーであったりとか。それ 戦争体験であったり、 からたくさんの外国人の方が家にい れたんですよね。ミャンマ らしていろいろな話を手話でしてく 質感のようなものが手 昔は気付かな 振り返ってみ フランスの方 そこに豊か の方の

先ほども触れましたが、

百年くらいずっと禁止されていたん 手話を使うと口で喋る訓練ができな 唯一の手話学校の立ち上げのお手伝 最初の研究会の古石先生は日本で なるんじゃないかという理由で をした先生なんです。実は手話は ね。その影響で、 ろう学校でも

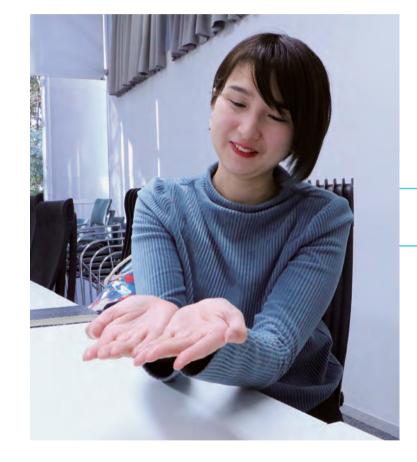
ないけれど、

きて優しい先生にはなれるかもしれ

のが、 した。 ミュニケーションの一手段だったも それを見ていたら、 どを改めてみることになったのです 作業をしていて。その中に、 ではないかとその時初めて気付きま なメディアとしての可能性があるの と思いました。それまでは単なるコ いる手による表現は、 が、それはもう本当に美しかった。 るビデオをすべてDVDに焼き直す する年でもあったので、 迎えた年にあるきっかけがありまし 野を専攻していたのです たのがまず原体験としてあります い可能性を持っているのではないか んの手話の映像があり、 た。ちょうどその年は地デジに移行 実は高校までは全く違う生物の分 音楽、映画そして写真のよう 今自分が使って 実はものすご 手話の詩な 父があらゆ たくさ

> 校を巡ったりしていました。 て学校のお手伝いをしつつ、 状況だったので、 はその学校に行ったり、 査や研究活動をしていたんです。 りたいとおっしゃって、 も手話も両方学校で学べる環境を作 古石先生は日本語 他のろう学 研究者とし 文献調

だから、先生としてろう学校の子ど たら私は「聞こえる人」なんですよ。 めてグラグラし始めたんです。それ アイデンティティみたいなものが初 言われたんですよ。そのとき、私の 思ったんです。そうしたら、 最初はろう学校の先生になろうと も達と接するとき、 ない環境でした。でも家から一歩出 まで私が暮らしてきた家の中は音が ていることも実感しました。だから それはとてもおもしろかったんで 同時に、課題や問題が山積し 夏実は聞こえるからさ」と 確かに手話がで 友人に



和田 夏実

mmm / SFC 研究所所員

(わだ・なつみ)

KEIO SFC REVIEW No. 66

界はおもしろいんだよ、

れないと思った。「あなたたちの世

なかなかなれないかも 彼らの悩みに共感する 創造性と言っても、

そもそも創造

聞こえない人とすごく近いけれど、 あったんです。 聞こえるということがずっと私を悩 るのかどうか分かりませんでした。 た時に私にはたして言えることがあ ませるだろうと落ち込んだ時期も ということは言えるかもしれないけ 彼らが本当に課題にぶつかっ

ではないかと思ったんです。 界を拡げていく関わり方はできるの 行っていました。 ら関わるのは難しいけれど、外側か 手段の開発によって子どもたちの世 関わる先生という立場ではなくと た。そこでろう学校で直接子どもと ションデザインの分野に出会いまし らであれば可能なのでは、と。そう も、教育開発やコミュニケーション った経緯で筧先生のもとで研究を そんななか、たまたまインタラク

たのですか? なぜ大学院に進学しようと思っ

でにやりたいことまでできていながしたかったけれど、学部卒業時ま 研究としては、単純に手話の研究

> たか たどり着けなかったんですね。 が、手話の研究まで自分の力不足で のを作るというリサーチ手法のこと かった考え方や行動特性を基に、も インの手法を水野先生から学びまし 究ではデザインリサーチというデザ 先生が定年となってしまい、卒業研 かったからです。学部時代は、手話 からもっと手話についても掘り下げ について研究したかったけれど古石 これは人に寄り添うことでわ ったんです。 非常におもしろい領域でした

肉に電気刺激を送る筋電というシス知ったんです。その真鍋さんが、筋 らないかというお誘いをいただい のダンサーたちのプロジェクトに入 を送りました(笑)。そのまま、そ やらぬまま真鍋さんの会社に履歴書 さにびっくりして、その興奮の冷め こえない人とダンスを踊るプロジェ テムで体に電気信号を送り、 うメディアアートがご専門の方を に出会う同じ頃、 かったというのがあります。筧先生 それから自分の生き方を模索した を行っていたんです。その新 真鍋大度さんとい 耳の聞

> アート作品に関わりました。それが ビリテーションツールのプロジェク 直に体験したんですね。それ以降他 リーランスを両立することにしまし 方の体を可視化していくようなリハ のプロジェクトにも関わることが増 きました。そのときに、モノづくり で大学院に入ってからは院生とフ ないかな」とも思ったんです。 ろで「もしかしてこれで生きていけ ちょうどおもしろくなってきたとこ ンプロヴィゼーションをする身体の えていきました。例えば脳性麻痺の の新しいあり方や、世界の広げ方を ジェクトを半年間担当させてい になりました。それからそのプロ て、手話通訳としてそこに入ること 目の見えない人と表現を行うイ それ ただだ

族との生活を形容する納得のいく言たち、といったように、私の中で家 ブデザイン、真鍋さんをはじめとす の感覚で世界を捉えて生きている人 から、障がい者ではなくて彼ら独自 るさまざまなプロジェクトでの経験 の考え方や水野先生のインクルー 筧先生が提唱していた HABILITATE

> 葉がみつかってきた。視覚と身体で 話が形作られていく。 スがおもしろいと感じたんです。 の感覚からものを作っていくプロセ めにテクノロジーを使って一緒にそ コミュニケーションをとることで手 それを探るた

-現在の研究について教えてくだ

生まれてくる言語であるとも思った んです。手話は音声言語とは質が異 ています。視覚だからこその発想が なる発想が生まれる言語だと思いま る。これはとても創造的だなと感じ の中だと自由に作り出すことができ くった人がその上を歩く……。 山を作る、そしてさっきの指でつ 人をつくって歩く、 行っています。例えば、二本の指で 今は手話の視覚的創造性の研究を もう片方の手で 手話

手で魚を形作って「これは何だろう に手を使って海を表現したんです。 のですが、そこでは子ども達と一緒 ども達とするワークショップがある あとは先ほどのような指遊びを子

だなと思いました。 それを伝えることができるのが素敵 頭の中の想像で空間を作り上げて、 紙やペンがなくともその場で自分の 豊かな空間なんですよね。CGとか アジ!」って遊ぶんですよ。非常に も手でアジをつくって「わ~アジ、 に向かうよね」っていうと子ども達 「アジかな」「アジはみんな同じ方向

してくれたら、そこから私が手で雨える、というような発想を手で表現き、雨が降ってコップの中の水が増 が溢れて、もくもくと雲ができてい コップを手で形作るところから、 画にしています。例えば、目の前の 発見したことをワークショップの企 チワークをしているんです。そこで 想にあるおもしろさについてリサー 週間に一度会って手話の視覚的な発 聞こえないのですが、 を表すツールを作ったり、 さんという方がいます。 で、私の大事な友人である南雲麻衣 く形で研究を進めています。 そういった研究を進めていく上 ルとして研究開発してい 四年前から一 彼女は耳が 水

> 年間でもかなり模索しましたが、 ことはやはり難しい。この修士の二 だ道半ばです。おそらくこれは私の さですとはいえても、 を動画で収めて、これが創造の豊か 定性調査的に創造的と思えるシーン 性とは何かという定義も難しいし、 人生をかけても終わらない探求にな 定量的に示す

教えてください。 修士課程修了後の展望について

裾野を広げていきたいですね。 開発していろいろな人が参加できる 思うので、私はそのためのツールを ものでもありません。丁寧に文化と 芽が出るものではないし、 する予定です。手話の研究はすぐに こうと考えています。それに加え、 して作っていかなければならないと パラリンピックのリサーチの仕事を してフリーランスでお仕事をしてい 今行っているプロジェクトを継続 形になる

ション・センター)というところで CC(NTTインターコミュニケー ありがたいことに先日は初台のI

> 聞こえない人たちから生まれた言語の人に、手でつくり上げる空間は、 話が「聞こえない人たちのもの」と展示を行いました。この展示は、手 して作っていきたいですね。これに ちんと文化、ないしは一つの領域と つ広げていきたいです。そして多く りました。こういった機会を少しず 方々からもさまざまな可能性を示唆 に見ていただけたことで手話話者の してその領域をどのように拡張して うに「表現方法やメディアとして美 たいと思っています。 は時間をかけて、丁寧に進めていき の人にひらかれうるものとして、 であり文化でありながら、 していただけたりと、可能性が広が 自分の未熟さを感じつつも多くの人 た。この機会は本当に素晴らしく、 いくかということが課題となりまし しいもの」として伝えていくか、そ う社会の見方がある中で、どのよ より多く

SFC生に向けてメッセージを

おそらくどのSFC生もぶつかる

をとても楽しみにしています。 学んでいくことで、日本に限らず世 ですし、むしろここだからこそそれ す。ですから、SFCの人には新し たことのない世界を発信してほしい 安がずっと付きまとうと思うんで たちが今後どんどん生まれていくの 界で唯一無二の領域の切り拓く人に ができるんじゃないかなとも思って ですね。仮説でもなんでも発信して す。ですので、不安がらずに誰も見 るものがないんじゃないかという不 か、手を伸ばしすぎて自分に確固 きるけど何もできないんじゃない 悩みだと思うのですが、なんでもで なれると思うんです。そういった人 てあると思います。それでも貪欲に て大変ですし、不安になることだっ います。もちろん、誰も土を踏んで い領域開拓を是非やってもらいたい いけるのがSFCの土壌だと思いま めて見えてくる景色が絶対にありま いない世界は、勉強することも多く でも、分野を横断することで初

(取材日:二〇一七年十二月二七日)

(構成:藤井

ぼん)か」と見られるのが嫌で、 自分のことを全く知らない人から 望したわけではありませんでした。 実は医者になりたくて医学部を志 大谷って幼稚舎出(のぼん

でしたので、 験させたようです。 業生だった縁もあって、 私の父がたまたま慶應医学部の卒 六年間担任もクラスメー

んて医学部を志望されたの

先生は自分たち皆のことが大好きだ 過ごしました。楽しかった理由は、 年間を除いた五年間を先生と一緒に 桑原先生がイギリスに留学された一 高に楽しい幼稚舎時代を過ごしまし 原三郎先生がとても素晴らしい先生 に伝わっていたからだと思います。 れ替わりなしという制度ですので、 ということが、われわれ一人ひとり 最高の仲間とともに最 担任となった桑 幼稚舎を受 トも入

医学部推薦なんて到底無理な成績で だった数学がその先生のおかげで一 のご自宅に通いました。 吉の帰りに週に二回、 と思わざるをえない先生でした。日 で、この先生に教わって数学ができ 親父に頼み込んで家庭教師をつけて した。このままではまずいと思い、 でしたから!

ないようだったら完全に自分が悪い

元住吉の先生 一番苦手

くれた先生がとても素晴らしい方 もらいました。その時数学を教えて

いうわけで、 自分が他者から間

と変なやつが来たなと思ったと思い

級だけを end-point とするのであれ

るを得ません。当時は医学部では進 する effort は最低限だったと言わざ ていたものの、今考えれば学業に対 はしない」という事をノルマにはし

してもらっている以上

医学部六年間は、

親父に学費を出 「絶対に留年

学部の推薦を勝ち取る事が出来まし

良くて、最後は何とかギリギリで医 ストという試験の成績も思いのほか たが、塾高三年の最後にある進学テ 機となって、まあ必死に勉強しまし 番の得意科目になった事が大きな転

学部推薦を全く意識していなかった 段として「医学部に行く」という大 のイメージを跳ね返す最も確実な手 しろ一年の時は数学も英語も「C」 ので成績は惨憺たるものでした。何 しかし、塾高の最初の一年間は医 ルを自分に課しました。

をお過ごしだったのですか

しました。どのような小学生時

大谷先生は幼稚舎出身だとお聞

生活を過ごされたのですか? 医学部入学後はどのような学生 した本当の理由です。

一所懸命勉強しても

着て行ったら、とても場違いな雰囲 に白衣を着ている先輩がいて、 気だったのを覚えています。学ラン 談話室で開かれた医学部バスケット させてもらえることになって信濃町 とその翌日のミーティングから参加 に入部したいと連絡しました。する 部バスケッ 学部推薦)を確認してすぐに、 も妙な雰囲気でした。先輩達もきっ を着ている人は一人も居ない代わり ところか知らなかったので学ランを した。その時医学部体育会がどんな の慶應病院の地下にある当時の医師 ですが、日吉の塾高校舎で合格(医 ール部のミーティングに参加しま 推薦学部の発表は二月にあったの トボール部のキャプテン 医学

トボールに打ち込んでいた感じです

一年やりました。ひたすらバスケッ

違った評価を受けないようにした い、そうするために自分が出来る唯 確実な方法として医学部推薦に挑 したというのが医学部進学を目指

九〇%」という生活を送りました。 は一〇%でバスケットボ もともと医学を勉強したくて医学部

間は勉強だけをしていて全くボール 高校生の大谷くんの目的は実はもう に入学した時点で「高校生の大谷く 大きな楽しみでした。バスケッ に触れていなかったので、 ることでした。塾高二年三年の二年 ケットボールを再開し、 ん」の目的は達成されたわけです。 に入ったわけではないので、 一つあって、大学に入学したらバス そこから医学部の六年間は「勉強 思う存分や なおさら 医学部

When I was young

学生にとって、教員はどこか遠い存在である。

しかし、そんな教員にも学生だった時代がある。一体どのような学生生活を送り、

それは、その後の人生にどのような影響を与えたのだろうか。

今回は、大谷俊郎看護医療学部教授と渡邊頼純総合政策学部教授に若かりし頃を振り返ってもらった。



医学部3年生の夏、

東日本医科学生体育大会(東医体、慶應が主管で日吉記念館で開催)三位決定戦の写真

ボール部では選手として六年間かか わり、そのうち主務を二年、

KEIO SFC REVIEW No. 66 When I was young 28

試験を数回やってくれました。おそ 時国試対策の予備校が出来始めた頃 学年で卒業が半年遅れましたが、当 費値上げ反対のストライキをやった 私たちの学年は一、二年生の時に学 時、試験は春と秋の年二回でした。 競争する企画などをたてて楽しみな グループを作って、グループ対抗で 勉強を半年でやらないといけないか だけ必死に国家試験対策をやりまし が上がってきて無事に国家試験を通 頑張って勉強会をやって、 れます。その模試を励みに、仲間と を知りたかったのではないかと思わ の国試を受けると知って無料で模擬 がら国試対策をやっていました。当 ら大変でしたが、 た。皆が四、五年かけてやっている かもしれないと思い、 がにこのままでは国家試験に落ちる が中心の学生生活だったので、さす らく自社の模擬問題のクオリティ かった。今とは時代が違いますね ば学業のノルマはそれほど厳しくな 慶應の現役の学生が固まりで秋 あまりにもバスケットボ 楽しい仲間と勉強 最後の半年間 後半学力

> てい 立ってからはどのようなことを考え たのですか? 医師として実際の医療現場に

間に救急外来に例えば骨折の患者さ 間にはなりたくないですよね。医師 ごまかすような態度をとるような人 前に立てば「先生」ですが、中身は うのも、もし自分が家に帰っている る暇は無いという感じでした。とい 寝る暇も惜しんで勉強や仕事をしま 違う意味で、本当に必死で、 ました。そこからは、高校時代とは になりたての時は日々そう感じてい ちの患者さんを目の前にして、 の底から思いました。 初めて「このままではいかん」と心 ほぼゼロです。その現実に直面して わけだから、白衣を着て患者さんの から焦りました。医師の資格は得た 医者としてのスキルはほぼゼロです なくて、試験に通って現場に出ても 焼刃の国家試験対策で得た知識しか した。もったいなくて家に帰ってい 大学六年間をまじめに勉強して過 た人達と比べたら、 先輩がどう処置をするの 自分の受け持 自分は付け まさに 口で

> 法がなかったので、論文を手にする 書館に行って探すか、医局の書架に 先輩に必死にくらいついて聞い までとても時間がかかったんです。 ある雑誌を漁って探しまわるしか方 は文献を読もうと思ったら自分で図 今はインターネットで読みたい論文 り、文献を調べて読んだりしました。 ち患者さんの病気や怪我についても り付いて残っていましたね。受け持 体ないと感じたからなんです。 が一秒で手に入る時代ですが、 かを見逃したりしたら、それこそ勿 当直でもないのに先輩にまつ 当時 なの

激に立ち上がったと思いますが、そ 外科や内科の病棟に配属されまし それぞれが望む診療科、例えば整形 に入れました。 当時は一年目から自分が希望する科 しての実力はラーニングカーブが急 た。現在の初期研修制度はなくて、 シュマンに共通して言える傾向でし れは自分に限らず慶應出身のフレッ フレッシュマンの一年間に医師と 基礎的な内容から勉強していき 所属することになるその診療科 当時は勉強が好きだから勉強 国家試験を終えたら

> 者さんがいて、翌朝までにどうして 生易しいものではなく、 なことだから勉強するという感じで する、嫌いだからやらないといった も知っていなくてはいけない、 目の前に患

伝える事で恩返ししなくてはいけ 化が脈々と息づいていましたし、今 く知識も技術も教える、そういう文 輩を厳しく指導しながら後輩に手術 だったら身に付けるのに十年くらい 少しでもプラスアルファして後輩に 分が上になった時には教わった事に げだと各自が自覚しているので、 おかげで若手は急成長できるし、今 もその流れが守られています。 が後輩を手取り足取り、 をやらせてくれます。 目以降の研修先の病院では先輩が後 素晴らしい研修制度がありました。 いと、自然にそう思うようになりま の自分があるのも先輩の指導のおか 一年目はさすがに無理ですが、二年 わる事で三、四年で身に付くという 慶應の整形外科では、 かる技術と知識が、 教える方も教わる方も、 指導者の先生 関連病院をま 惜しげもな 他の大学 その 自

医療の場が大学から地域医療に変 いると思うことがよくあります。わっても、慶應医学の精神が生きて す。身が引き締まる感じがします。 方について教わることが多いんで

読者に一言お願いしま

それ以外でも全く問題ないと思いま 勉強でも、スポーツでも、芸術でも、 会に出て必要なので自分の好き嫌い どこの社会でも同じであると思って す。才能とは頭の良さとは別次元の は六年間)であるべきです。 が、大学は好きな事、 に関わらずやらなくてはなりません います。高校までの勉強は、全て社 は、実は医学という世界に限らず、 今日のインタビューで述べた様な事 ということになります。また、 な事にのめり込めるのも一つの才能 られる事に打ち込む四年間(医学部 に打ち込んだ人が多いように思いま る人は学生時代に思う存分好きな事 医師に限らず、 言い換えると、学生時代に好き 卒業してから伸び 楽しいと感じ それが 私が

> のめりこんでください。 さん、学生時代は好きな事に楽しく 物事に打ち込める能力と言い換えて もそう的外れでは無さそうです。皆

(構成:坂本 美佳

者は急速に成長します。この点は今 相乗効果で慶應の卒後教育では新卒 も昔も同じです。

ることができました。

ると聞きました。でも患者さんに を知って愕然としました。 う教えないかという世界があること 元できたほうが良いに決まっていいわけで、患者さんに良い医療を還 とっては医者の先輩も後輩も関係な 上げたものを人に教えると自分が追 には教えない、自分が苦労して作り 自分が努力して作り上げた技術は人 本当かは分かりませんが、一部には、 と思うようになりました。どこまで の技術の継承という大きな問題があ る。医学教育の中で、 いこされてしまう、という考えがあ こうした文化は実は当たり前ではな 他大学出身の先生の話を聞くと ますが、どう教えるかではなくど むしろ慶應が少数派かもしれない 外科系に特有

バーしてほしいと思うのが慶應のやに一日でもはやく自分をテイクオー て追い越していきます。 化です。優秀な後輩はそれを吸収し にどんどん教えていくのが慶應の文 現場の知識や技術に関しては後輩 優秀な後輩

> ですから、 育体制は異なる部分もあるけれど、 輩から後輩への良い意味での序列が だと思います。 先輩後輩の良い関係は昔も今も同じ 生まれます。当時と今では病院の教 元できない。技術は卒業直後はゼロ んなに知識があっても患者さんに還 ですが、外科系は技術がなければど 験があれば、学年に関係なく強いの り方です。内科系の場合は知識と経 上から下へ教える事で先

する厳しい教育という形で現れてい 教と言えます。先輩が後輩へ、 るのだと思います。 医学に対するプライドが、 れます。上の人間にとっては、慶應 途絶えたら、慶應医学の良さは失わ はそれに必死で応えるという文化が く、どんどん教えていく、また後輩 この文化は医学の世界での半学半 後輩に対 厳し

心として展開されている医療の考え まくことがあります。患者さんを中 れている医療のレベルの高さに舌を に行ってみると、その現場で展開さ 言われて先輩が開業されている病院 立場になっても、手伝ってほし 整形外科医を教育指導するような

看護医療学部教授 専門は整形外科



KEIO SFC REVIEW No. 66

の裸足で上半身裸という格好でし

まざまな考えを表現していたので、

この出会いこそ、

さまざまな民

集中していることもあって、

When I was young

聞かせください。 先生の簡単なご経歴についてお

するようになりました。トイレ掃除 です。 間があり、 授業がありました。また、二時間目 いけないんです。それも、 て亀の子タワシで便器を磨かなきゃ 操ということで走ったり行進したり 目の合間のお茶の時間は、寒い時で学校の頃にあった二時間目と三時間 という、上智大学と同じイエズス会 こだわっているのはそれが理由なん 現在も僕の研究会でお茶を出すのに と三時間目の授業の合間はお茶の時 だから小学校では一年生から英語の 学校に通っていました。そこはアメ も雨や雪が降っていない限り中間体 も豊かな気持ちになったんですね。 クの男子校に行きました。 という修道会がやっているカトリッ ・父様がいる環境だったんですね。 カ人のシスターとかスペイ 僕は小学校の頃からカトリック 中学・高校は六甲中学・高校 お紅茶をいただいてとて 「名物」と言われてい すると小

> (笑)。 違いの始まりだったわけですけれど りたいと思ったわけです。それが間 事としてはイエズス会の神父様にな そして中学校二年生の時に洗礼を受 くるんですけどね。中学・高校の生 高校二年生になる時に将来の仕 やっているうちに体は温まって いものでした。

間の概念」。 とは何か」というテーマについてさ 自身の著書『告白録』の中で「時間 は「聖アウグスティヌスにおける時 る時に提出した卒業論文のタイトル です。そういうわけで四年間が終わ ら毎日ラテン語の授業があったわけ き二単位にしかならないわけですか すね。言語の単位は授業一コマにつ ラテン語だけで十四単位とったんで 哲学、神学をやらなくてはいけませ す。神父様になるためにはラテン語、 というのが僕の専門分野だったんで に入りました。そこではスコラ哲学 もったので上智大学の文学部哲学科 ん。だから僕は一、二年生のうちに 大学はカトリック神学に興味を 聖アウグスティヌスが

> それを取り上げました。 マを選んだなと思っています。 今でもい

ください。 大学時代に留学をされ

ろくて、 たんです。 使うさまざまな人々と出会いました 事長)神父様の授業がとてもおもし 終わったのですが、その後もいろい ということで、僕を連れていってあ がスペインのサラマンカで行われる 実はカトリック大学世界連盟の総会 「この夏休み何か予定がありますか、 たんですね。するとある日神父様が しました。そこでいろいろな言語を ろな神父様の実家へ遊びに行ったり と答えました。総会自体は一週間で げますというのです。 に行きませんか」と聞いてきました。 もしよろしければ一緒にヨーロッパ いたヨゼフ・ピタウ(元上智大学理 ーロッパに行くチャンスをもらえ 実は大学二年生の時に、二ヶ月間 積極的に授業に参加してい その当時政治学を教えて 私は「喜んで」

> たいと思ったんですね。 バックグラウンドの人に会ったりし 重なったのです。それを見てさまざ 族の統合体である欧州経済共同体と まな言語や文化を学んだり、 そして日本

治学、 ギーは小国だからこそEUの機関が 思っていました。 は奨学金を取る必要があった。今は 始めましたね。大学三、四年生の間 などの大国も良いのですが、 はベルギーに留学するのがい 七六年は奨学金を出してくれていた 僕が大学に行っていた一九七二~ でヨーロッパの国はあまり奨学金を びました。また、僕は普通のサラリ に留学のために国際関係論、 んです。僕は欧州経済共同体(EE くれなくなってしまったのですが、 もう日本が豊かになってしまったの マンの家だったので留学するために そこからは留学するための準備を 国際経済学、 のEU)のことを勉強するに フランスやドイツ 安全保障論を学 国際政



大学4年生の頃。左から2人目。

した。「卒業したら絶対にヨーロッに帰るときに私はパリの空に誓いま パに留学するぞ」と。

KEIO SFC REVIEW No. 66

ね。そういう意味では非常に緊張感 取らざるをえない環境だったんです たから、各々が何らかの「立場」を とするわけですよ。そんな時代だっ

と思っていましたね

のある学生生活でした。今みたいに

かせください

先生の今後

の展望につ

いてお聞

内では無料で旅行ができ、買った教二十二万円くらいでした。さらに国 初年給と同じ額なので今でいう 学金も充実しており、当時フランス 大学院大学があったのでそこを目指 院大学)という欧州統合に特化した には College of Europe(欧州大学 思いましたね。また実際にベルギ す。これこそまさに統合の中心だと ができたんです。これは悪くないな 科書は上限はあったものの払い戻し 十一万円ありました。これは当時のが五万円だったのに対しベルギーは すことにしたんです。 利害や利益を調整することができま ベルギーは奨

部科学省)のお偉いさんが一人は面 がついたのは必ず文部省(現在の文 習だったのですが、何回か受けて気 使館をまわって奨学金を調べ、試験 略を考えました。いろいろな国の大そこで僕は奨学金を取るための戦 を送りたいんです。 文部省は国立大学で留学生を受け入 接に出てくるんですね。というのも、 と思いましたね。 も受けました。それらは全部予行練 たいために、こちらも国立大学生 そのため、

> ける、 の奨学金をもらえました。 まな努力の結果、幸いベルギー ばいけなかったわけですね。さまざ 時は東大や東京外大の学生をやっつ 生としての私がグループ面接をする 言わば「理論武装」 しなけれ ·政府

たか 実際に留学してみていかがでし

こういうことを学んでこういう事を 「あなたがもし本当に beginner だ やってきたんだって言えばよかっ かったのですね。胸を張って自分は す。そこではへりくだってはいけな ました。そこでしまった、 めの学校ではありません」と言われ とすれば私の大学は beginner のた です。どうぞご指導をよろしくお願 はまだ勉強が足りない一介の学生で ります。そこで私は日本人なので「私 入学初めに学長面接というものがあ のとき失敗したことがあるんです。 ルチャーショックを受けたわけで いします」と言ったんです。すると College of Europe に行った初め 何も知らない極東からきた学生 と思いカ

本に帰ってきてからは改めて上智大くベルギーで生活していました。日をさせてもらって、合わせて三年近 ので、 学の国際関係論の大学院に入ったん めの三ヶ月はとにかく必死でした カット、退学になります。だから初 が入学して三ヶ月目にあったんで 言うのです ですね。その間一回も日本に帰りま ね。卒業した後は欧州委員会で研修 Exam と言って、要するに成績の悪 ともありました。特に Elimination ましたし、勉学に関しては苦しいこ ですね。すると母はすかさず私に言 に、僕は当たり前のように母をハグ せんでした。そのせいで帰国した時 い人はお帰りくださいというテスト いました「あんた三年間一体何勉強 して、ヨーロッパでの挨拶、ビズと そこで全員の基礎学力を揃える ーをするなど楽しいこともあり 落ちたらもちろん奨学金は が頬に三回キスをしたん

んです

してきたんや!」ってね(笑)。 留学中はほぼ毎週金曜日にパー

お聞かせください。

翼同士でものすごくいがみ合っている)、を行っていました。彼らは左 対立、いわゆる「内ゲバ」(独語で員会(通称「中核」)、がセクト間の 共産主義は人権や自由を奪うよくな 飲み込まれたわけです。嫌な言い方 緒にいた人は共産党系の民主青年同 多かったですね。二人一室の寮で一 和気藹々と話をするというよりは、 暴力を意味するゲバルトに由 ないわけです。そのため彼らとはよ とカトリシズムというのは折り合わ ですが、彼から見ると僕らは宗教と 言ってしまえば彼は完全に共産党に 盟、通称「民青」に入っていました。 く議論をしましたね。 した。一方で我々から見ると共産党、 い考え方でした。ですから共産主義 いうアヘン、麻薬にかぶれた連中で イデオロギーが絡むような話が結構 から革命的共産主義者同盟全国委 ルクス主義(通称「革マル」)、そ ある時には共産党系ではない革命 当時は学生紛争があった時代で

統合を通してこの地域に平和を構築 的にはアジア・太平洋地域における で応用できる可能性を模索し、 だ知見を基に、今度はそれをアジア 「国際協力政策」の三つ ヨーロッパで学ん ね。

どね。だから日本で大学院に行くと 通称「ノンポリ」と言って政治的な かよりもとにかくヨーロッパに行っ ほうがよかったかなと思うんですけ 今考えるとノンポリをやっておいた リとか言って軽く見ていたんです。 を誘ったりしている子たちをノンポ ジャズ喫茶に入り浸ったり、 の子ももちろんいました。 子をずっと追いかけているような男 立場を取らない。その代わりに女の とバカにされる。ノンポリティクス、 「立場」をとるかはっきりしない ロッパ統合をこの目で見たい 自分がどうい 女の子 一日中 いきます。 通じて豊かになれるような世界を作 透明性の高い貿易体制を、各国が協 授業で言っている国際貿易体制がな う。実はそういった思想が、僕が常々 緒にそれを守っていかないと、平和 だった。Peace makingとはよく 授業の背景です。 当している「国際政治経済論」、「国 る。こういった考えが、SFCで担 力して作ることで、どの国も貿易を ぜ重要か、 も自由もそして正義も奪わ 獲得していかなきゃいけないもの いように強い意志をもって仲間と一 17 ったもので、誰からも侵食されな 自由で開かれた開放的な という話にもつながって

使えませんから。それまでは大学と

肘や膝が壊れたらもう腕や足は

う権威、オーソリティに向かって

戦っていたんですけど、それが収

がやり合うんです。さすがに殺しは まってくると今度はセクトとセクト

しないけれども、

ものすごく悪いこ

から彼らは関節を狙ってくるんで

殴っても単純骨折でしょう?

です

り合っていたんです。

普通に腕を

バチバチと「ゲバ棒」でお互いに殴 利だったので革マルと中核が学内で ながら上智大学の教室に入ってくる 棒を持って「授業粉砕!」とか言い てあるヘルメットを被ってタオルで たんですよ。顔は上から中核と書い

あって、何日もお風呂に入ってない

足元にはヘルメットがおいて

スクをし、「ゲバ棒」とい

・う長い

から使わせてもらってい

・ます、

もちろん自由も同じです。

われてしまう」ものだったんですね。 識して推進し作っていかないと「奪

て言っていました。

今とは全然違って、

んですよ。上智は四ツ谷にあって便

これが今の目標です (構成:平澤 茉衣

に行ったら女の子がシャワー浴びて

るなんてこともあり

ま いした

思っているんです。

むしろ平和は意

常に存在している状態ではないと

僕にとっては平和というものは、

飲み会なんてものもありませんでし

からね。ちなみに男子寮のお風呂

れてしま

(わたなべ・よりずみ)

フランシスコ・ザビエル(洗礼名) 渡邊 頼純

総合政策学部教授、大学院政策・メディア研究科委員 専門は国際政治経済論、GATT・WTO 法、欧州統合論 大学時代のエピソ

があれば

《今を生きる》ということ

棚の奥底から めて迎える年の幕開けに、 二〇一八年元旦……40代として初 ボクは本

太尊への"敬"と"愛"を仲間の大橋いつめられるなか、主人公・前田だしてきた。抗争相手の鬼塚に追 動的にこのシーンを見返していた。 負に立ち向かうために、ボクは衝 卒論生・修論生たちとの真つ向勝 むけて一気に加速するであろう、 なじみのワンシーン……学期末に が語る"ろくでなしファン"にはお 田まさのり)の第15巻をひっぱり 、マンガ「ろくでなし BLUES」 「私の推薦図書」と銘打たれた本 10代の頃に夢中になった学園モ (森

かっちょわり・いろは 前田さんはない な

> ない。 と気ままなものである。「何のためじゃない。ボクにとって読書はもっ うが、ボクは決して「読書家」ではてこんなことを言うのもどうかと思 ため」という答えがもっともフィ に本を読むのか?」という問いにあ 彼らにはリスペクトしかない。 報や評価を日々SNSにアップし続 ことはあまりない。 書という行為自体は好きだけど「イ えて答えるならば「自分を震わせる かしながら、ボクはそんなに勉強家 けている人たちもたくさんいるが ンプット」のためだけに読書をする トするように思う。 企画への寄稿をお引き受けしておい 自 もう少しちゃんと言うと、 分の読んだ専門書や論文の情 同業者のなかに 恥ず

よ剣」「新選組血風録」(司馬遼太に魅せられた時期があった。「燃え代前半にかけて、ひたすら新選組例えばボクは、20代後半から30 郎)、「歳三往きてまた」(秋山香乃)、田次郎)、「幕末新選組」(池波正太郎)、「壬生義士伝」「輪違屋糸里」(浅 「新選組!」 さった。二〇〇四年の大河ドラマ 新選組関連の本は相当に読みあ 数え始めたらキリがないくらい、 「明治無頼伝」(中村彰彦) などなど、 の DVD-BOX は人生で

> 美学、 ボク を震わせてくれる、 やつで大人買いした。初めてもらった「ボー アの荒波で戦っていた当時の自分 成り上がりの美学、 ていたのだと思う。 なかには、ポスドクとしてアカデミ なかに、ある種の美学を感じとっ 男の美学"が散りばめられていた。 30代中盤の頃には、 敗者の美学……彼らの物語の 彼らの刹那的な生き方の た。この時期 ナンバー もっぱらに池 忠義の美学、 さまざまな ナス」 2 の つ

究活動をレビューし、教育者としてれもしない二○一三年夏、人生をかけた大勝負にボクは完全に「半沢直樹モード」で挑んでいた。学生時代から一方的に知っている先生方がズから一方的に知っている先生方がズラっと並ぶ会議室で、自分自身の研究活動をレビューし、教育者として 井戸潤シリー 祥事」「銀行総務特命」といった花 読了が先かドラマ化が先かのデッド 「仇敵」「株価暴落」「民王」などなど、 町ロケット」「鉄の骨」「七つの会議」 咲舞シリーズ、「空飛ぶタイヤ」「下 た半沢直樹シリーズをはじめ、「不 ネの逆襲」「銀翼のイカロス」といっ 「オレたち花のバブル組」「ロスジェ の抱負を語る。永遠にも感じられる にも有名な「オレたちバブル入行組」 ーズにハマった。あまり

だから、 したり、 まだ深く理解されていなかったわけ とりこそが脳機能の肝であることは 対応"でなく、 野と脳機能の関係は決して"1対1 はまだまだ浅かっただろうし、 は種々の脳領野の詳細な機能の理解 作用の事例も報告されている。 と引きかえに起こったさまざまな副 う治療効果はあったようだが、それ く行われていた。現に、発作が軽減 しい脳領域を切除するこの手術が広 精神に対して"悪さ"をしているら てしまった男性である。 けたことによって、 脳葉の一部を切除する外科手術をう ために受けたロボトミー手術 (Lobe 鍛原多惠子訳)である。 から中盤にかけて、世界では身体や スジが凍る話であるが、 =葉/ tomy =切除) ……すなわち、 H・M氏はてんかん発作の治療の 性格が温厚になったりとい 当然である。 領野間の情報のやり 短期記憶を失っ 今でこそ背 20世紀前半 脳領 当時

ここにいる。

神であの場所・あの時間に立ち向

かった。そのおかげで、

今、

ボクは

「(母校に) 倍

(恩)返しだ!」の精

お気に入りの地下倉庫のシーンを読

んで"半沢先輩魂"を注入してから、

トは熱く、でも思考はクリアに、

「オレたち花のバブル組」を開き、

スコーヒー田町駅西口店の一席で

震わせ、背中をおしてくれた本たち

こうして、これまでのボクの心を

憶と潜在記憶……その後、 けじゃない。 意味記憶とエピソード記憶、 であることを教えてくれた。それだ 的に、我々に海馬が短期記憶の"座 馬」を含んでいた。 H・M氏が切除した領域は一部「海 短期記憶と長期記憶 彼の悲劇は結果 彼が参加 顕在記

早川書房・スザンヌ・コーキン著忘症患者H・Mの生涯」(二〇一四年

物語……「ぼくは物覚えが悪い

が知っているであろう。H・M氏" ついた。神経科学を志す者なら誰も は当たり前にある一冊の本にたどり サイエンスを専門とするボクの思考

の視点から考えたとき、

脳と身体の

と、この青くさいフレーズを研究者

いうことなのだろうか?……ふっ

づく。

では《今を生きる》とはどう

場人物の姿が描かれていることに気

そこには圧倒的に"今"を生きる登 のことを今一度思い返してみると、

され、 くても、 協力しつづけてくれたことである。 来の科学と医療のために」と常に献 された事実は他にある。それは、H・ 得られた知見について話をしている。 覚の生理と心理」のなかでも、 細部にふれていただきたい。ボクが なっていたのだ。 記憶を新たに構築することはできな 査のことはひとつも覚えていないに 短期記憶を失い、過去に参加した検 身的な態度をとり、 なりの時間を割いて、H・M氏から 毎年春学期に担当している講義「感 する。そのひとつひとつの知見がど としての"記憶"の理解は急速に深化 も関わらず、である。意識にのぼる M氏が、術後約5年にもわたり、「未 れほど価値あるものか、 した様々な検査の結果から、 だが、ボク自身がもっとも心震わ 一貫したその誠実性の下地と 彼の脳の来歴は確かに保存 積極的に研究に ぜひ本書の 脳機能 それ

連ねたが、やはり深く太い教養は知 というときに自らをつき動かす 大事にしよう。意識レベルに残らず 性の源であることは間違いない。 感謝しよう。 が同時に、心震える感覚も変わらず 覚えられる力を持っていることに さまざまな感動体験はここぞ 冒頭怠惰なことを書き だ

> ながる過去にしていくか」……これなるはずだ。「今をいかに次の今につ を考えた次第である。 の生涯に思いを馳せて、 (永遠の現在形)。を生きたH・M氏 のかな? "Permanent Present Tense こそが《今を生きる》ということな そんなこと

道部の出身……ならば!

面接1時間前、

スターバック

というこ

ラマの半沢直樹はボクと同じ慶應剣

は到底乗り切れるものではない。ド質疑応答の時間は生半可な心構えで



専門は運動生理学、神経科学



環境情報学部准教授

KEIO SFC REVIEW No. 66 私の推薦図書 36



容は、 るつもりで書いてみよう。 と個人的に私の子供にアドバイスす あるので、私の研究会の学生や、もっ ないどころか有害であるかもしれな の領域を専攻する学生には役に立た れば奇妙であるかもしれず、 か。 れば学んでいる領域、 各個人によって異なり、 かと思う。そのため、 に行われることがほとんどではない もかなり異なるのではないだろう 読書とは何らかの知識獲得のため とはいっても依頼された原稿で したがって、ここで私が書く内 私と専攻の異なる教員からみ 専攻によって 読書の目的は 大学生であ また別

め、話は分かったとしてもこれらの

古い英語のた

英語で観劇

書き・そろばんができないと四年間 想であるが、最低でも上記の読み・ 線形代数(そろばん)である。この 英語での正しいライティング・ 書き・そろばんであり、これは英語 なる学問を身に付けるというのが理 ング(書き)、そして統計学・解析学・ ルおよびコンピュータ・プログラミ る財務諸表などの理解力 (読み)、 の読解力およびビジネススキルであ で身に付けるべきはいわゆる読み・ そもそも、大学生にとって四年間 自分の専攻、 すなわち強みと スキ

はこのくらいは身に付けておかない ることもできる。 などはその補完的なもの、 と思った方がよい。 の授業料と貴重な時間は無駄になる 後々後悔することになる。 世界中で大学生

だろう。 というのは実際には非常に困難であ なくてもよい)読み物もあっていい てしまい、非効率であるかもしれな るだけでなく、 四六時中頭に詰め込むべく努力する い(あまり頭を使って論理的に考え い。そのような場合にはやはり、 そうはいっても、 時として頭が疲労し 役に立つ学問を 軽

れない。 れば、 て衒学的な論調に惑わされ、煙に巻ものである。時として、議論におい 関係がある?」と切り返せるかもし 知識があれば、 れがどうした?」「今の議論とどう のようなときに、ある程度の教養・ かれることもあるかもしれない。そ シェー もう一つ、読書の必要があるとす いわゆる教養を増やすとい クスピアの戯曲など、 ひょっとすると「そ う

位置付け それほど長くもない。 もよいかもしれないが、 クベス」(すべて岩波文庫) する。「オセロウ」、「リア王」、「マ した経験からすると、 の拍子に会話での話題になったりも し、将来海外で劇を見たり、 英語で読んで

など、

伝えず、 計が独立してこそ国が独立する、 高校までで古典(古文・漢文)に親 事と所得および支出)に責任をもち、 には各個人が自分の生活(つまり仕 観を否定するものであり、 に見せかけて実際には国民をコント 塾には「独立自尊」という考えがあ 立心のない人は社会のお荷物になっ ないが、特に重要なことは個人や家 しまなかった人には厳しいかもしれ 「学問のすすめ」は読んでおこう。 英語を理解するのは本当に難し ロールしようとする前近代的な国家 しむべからず」というように事実を るが、これは「よらしむべし、 てしまうということである。慶應義 う人もいるし、読まなくていい、 いう人もいる。とりあえず福澤諭吉 古典については読んでおけ、 政府が国民を保護するよう とい 独

のであれば読むのに時間はかからな ていてもいいかもしれない。短いも

もっと知るべく、高校の教科書を見 その時には自分の知りたいことを れでも、この本を読むことによって いとわかりにくいかもしれない。その知識があれば面白いが、そうでな あるいは他の書籍に もっと知りた と驚かざるを得ない。 は読んでも面白い。 本田宗一郎が日本経済新聞「私の履

のではないだろうか?

ゆまない努力、学びの姿勢が大事

できることなど、

ほとんどない。

た

進み世界に取り残されつつある日本

てなければ、急速に少子・高齢化が 誰かにすがろうなどという考えを捨

をどうにかすることなどできないと

世界史に興味を持ち、

い、と思うようになるかもしれない。

きることとは、経済的に独立できる

いうものである。そこで大学生にで

ように employable になるようにす

が多いが、こんな本を1回読めばわわれたのは「わからないという学生 瞬間であった。 はないのだ、ということが分かった ほど、学術書を読むというのはそう かると考える方がおかしい。」なる に出した先生が、秋学期の初めに言 も触れてみよう。 いうものなのか、自分の頭の問題で ちなみに、この本を夏休みの課題

ていた。 全く不案内なので、 きないが、それでも といったような内容のことを書かれ を読むとそのことがよくわかる」、 が、どこかの新聞の私の履歴書など のボオドレエルにも若かないという 生が、学内の刊行物に「人生は一行 しゃることは半分くらいしか理解で 私の学生時代、経済学部のある先 私自身はフランス文学には この先生のおっ (例外的に?)

を専門にする研究者が経済史をまと

めると非常にわかりやすい、

という

今でも良い本だと思うし、 理論」(講談社学術文庫)

経済理論 である。 されたJ、R、ヒックス「経済史の 部生のとき、夏休みの課題として出 も古典とは言えないが、私が経済学

次に挙げておきたいのは、

必ずし

れるものである。

考える上でも重要な示唆を与えてく だろうかということを含め、今後を 生の目指した社会は実現できている 本は民主主義とは何だろう、

福澤先

はないだろうか? その上で、この と思われる人になるようにすべきで なくとも、

他人から、社会から必要

ることではないだろうか?

そうで

直してみたり、

記するもの、という観念を打ち破っ

この本はある程度世界史

経済で歴史を見ると歴史が単なる暗 ことがよくわかる本である。しかも、

痛感させられたという記述がある 新しいものに挑戦する人の考えるこ なく、研究をしている人に聞いたり で基礎研究も重視していたようであ 言った本田氏は一方で大変な努力家 オートバイや自動車を生み出して を繰り返しながらも世界的に売れる 者と称され、見様見真似で試行錯誤 識とは、日本以外では常識ではない う姿勢の大切さを教えてくれる。と の本は、常に革新を求め、 ほとんどは存在しなかったのではな とは、これほどにも進歩的なのか、 後と、技術者・経営者として次々に 歴書」に連載した内容をもとにした の先生に相談に行き、 まく作れないときに、 かもしれないからである。 いだろうか、と思わせてくれる。こ ら、今の日本が抱える大きな問題の べきと主張することができていた 「夢を力に」(日経ビジネス人文庫) いうのも、 自分でやってみるというだけで ピストンリングがどうしてもう われわれの考えている常 戦前・戦中・戦 高等工業学校 この人がやる 知識の不足を 天才技術 常識を疑

> 和田 龍磨 (わだ・たつま)

総合政策学部教授 専門は国際金融、計量経済学、マクロ経済学

KEIO SFC REVIEW No. 66

私の推薦図書

書物を読んだりしなければわからな

いこともあるのだ。思いつきだけで

KEIO SFC REVIEW /

No 66

発行人

桑原 武夫 (湘南藤沢学会会長)

編集長

平澤 茉衣 (環境情報学部2年・韮崎高校出身)

副編集長

藤井 咲妃 (環境情報学部3年・県立長野高校出身)

編集スタッフ

坂本 美佳 (2017年度看護医療学部卒業·宮崎北高校出身)

樋口 誓一郎 (2017年度環境情報学部卒業・成蹊高校出身)

湘南藤沢学会

KEIO SFC REVIEW 担当幹事

國枝 孝弘 (総合政策学部教授)

事務局

田坂 真美

From Editor

皆さま、66号をお手にとっていただき、誠にありがとうございました。はじめに発刊日が遅れましたこと、お詫び申し上げます。

さて、今号の企画ですが、昨年行われたOpen Research Forumで「外国語学部でもないのにこれほどいろいろな言語を学ぶことができるのを当たり前だと思わないでほしい」、「自分の言語レベルに合わせて学びたい授業を選択できる環境にいたなんて本当に幸運だった」と口にしている卒業生がいらっしゃったこと、同時に「SFCでは研究が盛んだよね」と耳にもしました。両方とも気になるならば、外国語の運用能力を自分の研究に活かしている学部生・大学院生を探そうかという結論に至ったのが始まりです。

取材や寄稿を通して、SFCの言語教育レベルが高いからといって、それにただ身を任せれば良いという訳ではないんだと改めて痛感しました。SFCは善くも悪くも自由なキャンパスです。SFC生が本気で学びたいと思えば多くのバックアップをしてもらえるでしょう。その逆も然りです。私たちSFC生は自分のために学べるこの機会を最大限に活かすことを考えるべきかも知れません。

最後に66号を読んで、言語を学ぶ意味、留学や 研究までの道筋を見つけていただければ幸いです。

2018.05.21 平澤 茉衣

発行日

2018年5月31日

発行所

慶應義塾大学 湘南藤沢学会 〒 252-0816 神奈川県藤沢市遠藤 5322 0466-49-3437 http://gakkai.sfc.keio.ac.jp/ gakkai@sfc.keio.ac.jp

製作・印刷

株式会社ワキプリントピア 〒 252-0815 神奈川県藤沢市石川 6-26-19 0466-87-5811

http://www.printpia.co.jp/

無断転載・複製を禁じます。

派所は祖 で相談は慶應義塾大学 湘南藤沢学会までお寄せください。 最新号およびパックナンバーをご希望の方は湘南藤沢学会まで ご連絡ください。 KEIO SFC REVIEW は 学生編集スタッフを募集しています。

興味のある方は、keio-sfc-review@sfc.keio.ac.jp までご連絡ください。